

# ファーストコンタクト7

## アセンション前夜の攻防



### アセンション前夜の攻防 目次

- 第1章 「全てを見渡す創造主」の野望
- 第2章 狂気に満ちた「全てを見渡す創造主」の罫
- 第3章 「絶望の宇宙」との接触
- 第4章 異なる宇宙の創造主と怒りの目
- 第5章 忘却の創造主
- 第6章 光の地球の様子
- 付録 光の世界の区分

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式 HP <http://hikaril.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI [yume34@k-suai.com](mailto:yume34@k-suai.com)

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

## 資料 宇宙連合の組織について

		創造主と評議会の役割	スターピープル	闇が生まれた原因
宇宙 連合	第10評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて管理や指導を行う。現在は第10評議会をリーダーにすべての評議会で地球のアセンションを見守る。	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	第10評議会の創造主の1人が、「リセットの創造主」に創造主の成長を命じ、「忘却」の力を与えることで、「リセットの創造主」が、創造主の混乱を引き起こすことを認めた。
	第9評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて管理や指導を行う。	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	「リセットの創造主」が、創造主の学びを行わせるために、下の創造主の正義感や判断力を忘却させ、混乱に陥れる。
	第8評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 私や美樹さんと同じスピリットを持つ創造主が、宇宙の様々な世界の探査を行う。	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	第9、第10評議会に、下の宇宙の出来事を報告する「全てを見渡す創造主」が「リセットの創造主」により正義感を失われ、支配欲を持ち「怒れる創造主」を作ったり、宇宙を支配のための企てを行う。
	第7評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全てを見守る創造主」がリーダー	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	上の評議会から闇を持った創造主として生み出された「怒れる創造主」が評議会に反乱を起こし全ての宇宙での闇の創造主の大元となる。
	第6評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全ての創造主の働きを持つ創造主」がリーダー	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	「変化を促進する創造主」が、創造主を成長させたいという理由で宇宙に闇のエネルギーを流すが、本当の理由は宇宙の支配。
	第5評議会	第4評議会が作った全ての宇宙を管理。「陽の働きを持つ創造主」がリーダー	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	第4評議会の創造主達から騙されて闇に落ちた「暁の光の創造主」が下部の創造主の光を奪う。
	第4評議会	1人1人の創造主が、独自に宇宙の原型を作り出し、スターピープルと下部の評議会に創造を委ね	創造主達が宇宙を創造するために必要なエネルギーや技術を提供するための特別な能力を持つスタ	「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が対立していたが共に闇の創造主となり、2人が手を組んで宇宙の支配をもくろむ。下部の

	る。お互いの宇宙にはあまり関わらない。	一ピープル達が存在している。	評議会の創造主達を闇の創造主に仕立てあげていった。
第3評議会	「道を指し示す創造主」を中心に、第4評議会の創造主によって作られた宇宙の細かい部分を創造し運営する。他の創造主を信頼するあまり闇落ちた創造主を放置する。	第10アセンション以上のスターピープル達。グルナレッドやミスト星人等。宇宙のエネルギーの適正化を行なったり、宇宙の健全な運営を担うための働きをする。	「宇宙の創造を管理する創造主」や「道を作り出す創造主」が闇の創造主となり、この宇宙を光の創造主から奪い取るために、闇の創造主達を地球の各地に配置しアセンションを妨害してきた。彼等は第4評議会の創造主に操作されていた。
第2評議会	「栄光の創造主」を中心に第3評議会によって作られた宇宙の創造と運営を手伝い、第1評議会の働きを管理し手助けを行う。様々な宇宙の中で大きな問題が起きた時はその解決にあたる。	第5アセンションから第10アセンションのスターピープル達。ロッド星人やエリシタールなどが属し、第1評議会のスターピープルを助けて、叡智ある存在の成長を手伝う。	第3評議会の闇のエネルギーによって過去に創造主大戦争を引き起こした。今回も闇のエネルギーの影響で、第2評議会の中心的な創造主が闇に落ち、宇宙を混乱させ、アセンションを妨害し、私達にも大きなサイキックアタックを行なった。
第1評議会	「源の創造主」をリーダーに「光彩の創造主」等が上の評議会から託された宇宙を具体的に運営する。また物理世界に生きる多くの存在達の成長を助け、宇宙連合へ迎え入れる。	第1アセンションから第5アセンションまでのスターピープル達。アシュタール連合や様々な星のスターピープルによって構成され、宇宙の平和と成長を守り、各星の人々の意識進化を手助けする。	上位の評議会からの闇のエネルギーの影響で、第1評議会の創造主のリーダーである「創造主の独自性を育てる創造主」等、主だった創造主が闇の創造主となり大きな勢力を作り、光の創造主を圧倒していた。そのために地球を始め多くの宇宙に闇がはびこり、ダークピープルが宇宙を荒らしまわる事となった。
物理的に存在する宇宙	宇宙連合によって生み出された宇宙、多くの銀河や星団に別れ独自に発展している。	スターピープルとダークピープルが存在。アセンション前の存在達は宇宙連合には入れない。	闇の創造主やダークピープルによって地球だけでなく多くの星々が闇が多い世界となり、人々の成長を阻害している。

## PART 1 スターピープルの役割と組織

私は、本当は前回のレポートまでで皆さんにアセンションに関する情報や私達の活動をお知らせすることを止めようと思っていたのですが、この2か月ほど大きな動きがあり、光の地球へとやがて入って行く人達には知っててもらいたい事がたくさん出てきました。

今までアセンションレポートを読み続けてきた人達にとっても、もうすでに想像をはるか超えた世界になってきていると思いますが、私自身の記録のつもりで書いていきますので、ご興味があれば、お読みください。

まず本編を始める前に、これから私達は宇宙連合と共に活動していく事になりますので、スターピープル達や創造主、宇宙連合の仕組みを皆さんにご紹介するところから始めたいと思います。

## 【スターピープル】

私達は、地球に住む地球人ですが、地球以外の星から来て地球に関わる地球外生命体達もたくさん存在しています。

彼等は、目的によって2つのグループに分かれます。

それは、地球人を成長させるために、人々をより良い方向へ導く善良な地球外生命体達（スターピープル）と地球を支配し地球人を自分たちの思いのままに利用したいと考えている狡猾な地球外生命体達（ダークピープル）です。

良心的な地球外生命体達であるスターピープルは、天の川銀河の中でも、地球よりも早くアセンションを行い、宇宙のために活動している星々の人達の事です。

主にアンドロメダ座、シリウス、アルクツールス、プレアディス星団の人々が、現在地球に関わっていますが、全て宇宙連合に属し、宇宙連合の計画と指示のもとに行動しています。

そして、各星固有のスターピープルとは別に、高度な叡智を持つ星々のメンバー達が集まって作られたアシュタールや銀河連合といったグループも存在しています。

彼等は常に、宇宙の進化のために下記のようにいくつかの役割を持って活動しています。

- 1、創造主をサポートして、宇宙を創造し運営する仕事。
- 2、創造された星々や星に住む種族が侵略されたり破壊的な状態になる事を防ぎ平和に保つ事。
- 3、未だ十分に意識進化していない人々を導き成長させる事。
- 4、ある程度の意識進化の段階になった人々をアセンションさせ、スターピープルに進化させる事。

彼等は、愛の度数や意識状態が高まるごとにアセンションを行ってさらに愛や叡智が高い状態へと移り変わっていきます。

アセンションが進むと、スターピープル達は物理的な体から半物理的な体に移り変わり、第6アセンションを超えるころには、ほとんどのスターピープルが物理的な体を失ってスピリット体へと変わっていきます。

宇宙連合でも肉体を持つスターピープルの多くが、第1評議会に属し、地球のように物理的な肉体を持つ種族や物理的な世界を持つ星々に直接関わるすることができます。

しかしアセンションが進み、完全に肉体を失うと特別な種族を除いて物理的な種族や世界に関わることができなくなりますので、宇宙の中でも他の役割を担う事になります。

それは、第1評議会や第2評議会のスターピープルのサポートや教育を行ったり、宇宙の平和を観察したりすることです。

更に成長して第3評議会～第5評議会のスターピープルになると、創造主と共に宇宙の創造を手助けする仕事を行うようになります。

それでは次に、どのようにして、通常生命体がスターピープルへと成長していくか説明しましょう。



スターピープルへの第1歩は、もともとその星に存在している生命体の中でも、これから叡智を持つ可能性があると思われる種族に、優秀なスターピープル達の遺伝子を組み込んで成長させることです。

地球では、そのために選ばれたのが、類人猿と呼ばれる種族だったようです。

彼等は、意識が成長してくると村社会を作り、社会性や自我意識に目覚めてきます。

そして次の意識進化のための遺伝子操作を受けるまでに成長していきます。

やがて彼等は、長い期間をかけてスターピープル達から教育を受け、様々な技術や文化的な側面を成長させて文明を形成していきます。

スターピープル達は、彼等の社会にあまり介入することなく、さまざまな機械技術や宇宙工学などが発展するように、彼らの能力を高めていきます。

また、様々な技術のアイデアを、夢などを通して、人々に与え成長の手助けをします。

これもスターピープルになるためのトレーニングのひとつです。

そして人々が、ある一定の意識と愛の水準になったら、その星の種族にアセンションをおこして、大きな意識進化をもたらします。

最初のアセンションを通してもたらされる進化とは、自分達の星以外にも素晴らしい叡智を持っている人々（スターピープル）が存在し、それらの人々が宇宙の進化と平和のために貢献していることを知る事です。

そのために、スターピープル達が人々の前に現われ彼等を直接指導することが起こります。

私達地球人は、現在、この第1アセンションを迎える時期となっています。

アセンションを通して目覚めてきた人々は、スターピープル達と共に活動を始め、宇宙に貢献できるようになります。

そしてその貢献が認められると、やがてスターピープルの一員となり宇宙連合へと加入することになります。宇宙連合へは、第1アセンションを行うと加入できますが、この時期はスターピープル見習いとして、先輩のスターピープルと共に活動します。

やがて第1アセンションを終えた人々が更なる成長を遂げると、愛の度数も高まり第2アセンションを迎えることができるようになります。

第1アセンションを迎えるためには、自分達の種族や叡智あるスターピープル達を愛し尊敬する事を学びますが、第2アセンションを迎える為には、自分達の種族だけでなく、未だ発達途上の種族も含め、この宇宙に存在する多くの種族たちを平等に愛することができるようにならなくてはなりません。

なぜなら、第2アセンションを成し遂げたスターピープル達は、まだ十分な意識の成長を成し遂げていない種族の人々と単独で関わる事になるからです。

この時に高い愛の意識に達していないと、まだ十分に成長していない種族にたいして、彼等を尊重するのではなく彼等を自分達に服従させたり、自分達のやり方を押し付けたりしてしまい、彼等の意識の成長を妨げてしまうからです。

第1評議会のスターピープル達は、第6アセンションを達成すると第2評議会へと移りますが、この時はすでに肉体としてではなくスピリット体として働くことになります。

そして、今まで培ってきた経験をもとに第1評議会のスターピープルを指導したり、創造主のお手伝いをするようになります。

## 【ダークピープル】

スターピープルにたいして、闇のエネルギーに飲み込まれて、自分達の欲望のために活動する種族を、ダークピープルと呼んでいます。

例えば、オリオン星人やアルクツールス星人のように同じ星の人々でも、進化の過程でアセンションを繰り返してスターピープルになる種族もいれば、ディセンションしてダークピープルになる種族もあります。

ダークピープルになる種族は、闇の創造主によって彼等の部下にされ、未発達な星の人々を、闇の創造主に従属させたり支配するために働かされることが普通です。

彼等自身も本来は純粋な気持ちを持っているのですが、支配欲や攻撃欲などをかきたてられ、愛の心を失っていきます。

すると、彼等はどんどん欲に染まって、自分の意思で人々を攻撃し支配することを好むようになり、ディセンションを繰り返す事となるのです。

ディセンションを繰り返すたびに、ダークピープルは闇の力を身に着け強力なパワーを持って未発達な種族を支配するようになります。

今迄の地球の歴史がそうでした。

争いや奪い合いが繰り返され、人々は人間としての尊厳を失い、殺されたり傷つけたりされてきました。

経済が発展している世界では、多くの人々が一部の裕福な人のための奴隷として無理やり働かされてきました。

そして科学技術が発展すると核兵器や原子力発電など人々や地球環境に大きなダメージを与える技術も作られ、地球の破壊へと人類は歩いていくのです。

私達のアセンションへの道のりは、まさにこの地球人を支配してきたダークピープルや彼等を操る闇の創造主との戦いでした。

現在は、今までの地球を、闇が多い地球と光が多い地球に分け、闇が多い地球は今までの地球と同じく闇の創造主やダークピープル達が支配しますが、光が多い地球は、ダークピープルや闇の創造主はすべて排除され、スターピープル達が見守り、アセンションしていく人達を育てるための地球となっていきます。

本来アセンションは、その星にすむ種族達がすべて同じように意識進化していくのですが、この地球に関しては、1人1人の意識が多様化しており、愛の度数も精神の発達具合も全く異なりますので、全ての人が同じようにアセンションすることはできませんでした。

その大きな要因が、このダークピープルとどのように関わっているかという事でした。

同じ日本人でも、他人に優しくして貢献したいと考える人もいれば、他人をだましてもお金を儲けたいと考える人もいます。

また、自然災害などで困っている人を助けたいと考える人もいれば、自分の欲望のために他人を傷付けたり利用したりすることを平気で行う人もいます。

それらの事柄がすべてダークピープルのせいであるというわけではありませんが、彼等のエネルギーが大きく関わっていることは確かです。

ダークピープル達は、スターピープル達が地球人に関わる事で、地球人が目覚めアセンションしていく事を大変嫌い、常に私達の妨害をしてきました。

それは、1人でも多くの地球人を欲望の虜にしてディセンションさせ、自分達の支配下に置いて利用していたからです。

人々はその事に気づかず、自分達の欲望のままに生きていくと、争いや支配欲に満ちた世界から抜け出すことができなくなります。

そして、自らもディセンションしてしまうのです。

私達は、地球の人々が1人でも多くアセンションしてスターピープルになれるように、ダークピープル達を処理したり、地球人に大きな影響を与えている闇の創造主達を光に返してきました。

彼等に捕えられている皆さんのスピリットの一部も開放して、地球の人々がスピリットの統合を果たし、自分が本来持っている「愛」のエネルギーに目覚めることができるように努力してきましたが、人々が自ら、自分が持っている愛に気づき、自分のスピリットを受け入れる事ができなければ、その人は何も変わる事はできません。

地球は2016年の末までに大きく分離されていきますので、それまでに光が多い地球へと入って頂き、スターピープルへの道を歩んでいただきたいと思います。

## PART 2 創造主の目的と区分について

私のレポートや活動に関するブログを読まれて皆さんが一番困惑するのは「創造主」という概念だと思います。地球では、創造主というのは唯一万能な存在であり、過ちなどを犯すはずはない存在とされています。また愛に満ち、多くの人を慈悲の心で助けてくれる存在だと思われていますし、私もそう思い続けてきました。

しかし、私達はアセンションを進めるにつれて様々な創造主に会いました。

そして分かった事は、創造主は唯一無二の存在ではなく、役目や階級に応じて無数に存在しているのだという事です。

そして全ての創造主が、万能であり過ちを犯すはずがないという考え方は大きく間違えているという事です。

もちろん、私があった創造主の中にもその様な尊敬すべき創造主はいましたが、本当に僅かでした。

創造主の中には、自分の欲望やエゴに負けてしまい、この宇宙を自分が好きなようにしたいと考え、自分の部下にあたる創造主やスターピープル達を利用して、地球人や多くの星の人々を支配しようとする創造主達もたくさんいたのです。

もし、全ての創造主が、愛と慈悲に満ちていたなら、この地球のように戦争や侵略、あるいは殺人や暴力、経済的な抑圧や自然破壊などは決して起こらなかったでしょう。

創造主自身が暴力と支配を好むからこそ、地球のような闇が深い世界が生まれてきたのです。

ギリシア神話に出てくる最高の神であるゼウス神も自分の欲望の赴くままに、女性達をさらいたくさんの子供を生み落させました。

もちろんこれは神話ですが、ゼウスと同じように自分達が作った宇宙は自分達が自由勝手に扱ってもよいと考える創造主達が、実はたくさん存在しているのです。

ではなぜ、その様な存在が創造主としてこの宇宙に君臨しているかという事をお話ししましょう。

それは簡単な答えです。

創造主から宇宙の創造と運営をするために作られた存在だから創造主なのです。

創造主は肉体を持ちませんので、誰かの体から生まれて成長していくわけではありません。

上位の創造主から目的に応じて、自分の光を分けて作られます。

高次の光には意識や能力が伴いますので、光を分かち与えられて生まれた創造主は、生みだしてくれた創造主の能力と資質の一部を持つ事になります。

その資質と能力を使用して、上位の創造主の指示のもとに宇宙の創造や運営を行い、与えられた任務を果たします。

生みだされた創造主は、自分を生みだしてくれた創造主には絶対に逆らう事はできません。

逆らった場合には、自分の元となった創造主の光のもとに返される事となります。

私の PDF ブックをお読みの方はお分かりかと思いますが、私は、問題がある創造主に対処する場合には、必ずその創造主を生みだした創造主か一つ上の創造主にあらかじめ相談して処理を行なう了承を取り付けます。

そして問題がある創造主を問い詰め、問題がある創造主が自分の罪を認めるか、その創造主を生みだした創造主が、更生の余地がないと認めた場合には、上位の創造主の判断によって、問題を起こした創造主を光に返すことができるのです。

私は、多くの創造主が行ってきたことを調べる為に、地球の物理次元に生まれ、2013年から4年をかけて一つ一つ宇宙の次元を上がり、下の階級の創造主から宇宙を創造する役目を持つ創造主の位置にまでたどり着きました。

そして、1人1人の創造主の働きを見ながら問題がないかを調べてきたのです。

問題がある創造主は、私達の活動や地球のアセンションに対して大きな妨害を働いてきます。

すぐには分からなくても、一緒に行動しているうちに、私達を裏切るような行為をしたり、闇の創造主の命令をうけて私達を罠にかけようとします。

何故地球人の私が、創造主の世界に入り、創造主の問題を明らかにして創造主を光に返すことができるか不思議でしたが、地球のアセンションが進むにつれて、高次元の創造主が、多くの創造主の墮落にすでに気づいていたために、私を地球に降ろし、創造主が犯している罪を調べ上げる役目を私に与えたという事が分かってきました。

地球のアセンションは、地球に住む人々にとっては、自分達の意識を高め、スターピープルになるための第1歩ですが、高次元の創造主にとってみれば、墮落した創造主や闇に落ちた創造主を探し出し、彼等を光に返す事で、まともな創造主だけが残る宇宙を創るための壮大な計画があったようです。

次に創造主のレベルについて大きくご紹介しますが、レベルに関しては、私が簡易的に区分けしたものです。

### ★物理世界を持つ宇宙

○第1レベル 天の川銀河の中の創造主

階層としては一番下の階層の創造主です。主に星々や星座の働きを保ち、星に存在する生命達を生みだします。彼等は星座の創造主とも呼ばれています。

その上には、天の川銀河全体の管理と創造を行う創造主もいます。

○第2レベル 局部銀河の創造主



私達にとって観測可能な宇宙（ユニバース）の中でも、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含む局部銀河が一つの宇宙の単位となっています。

この局部銀河を治める最高の創造主は、私達が「界王」呼んでいる創造主で彼のもとに多くの創造主が役割を分担して存在しています。

私は、局部銀河の運営にたずさわる創造主を「グレートゴッデス」と呼んでいます。

特にグレート・イエスやグレート・マリアは地球の事をとても大切にしてくれています。

#### ○第3レベル 観測可能なユニバースを統治する創造主

物理的な世界を持つ宇宙（ユニバース）を直接統治する創造主達です。

主に第4レベルの創造主に対応する創造主達がいて、第4レベルの創造主の指示のもとに単一宇宙であるユニバースを運営しています。

#### ○第4レベル 多次元宇宙を統治する創造主

観測可能な宇宙だけでなくパラレルワールドも含む多次元宇宙を統治する創造主達の世界です。

そのリーダーは、エンソフと呼ばれる創造主です。彼のもとに、星々を創造する創造主、人々の運命を司る創造主、宇宙の安定を保つ創造主、ドラゴンや精霊を生み育てる創造主、4大エレメントを駆使して宇宙を創造する源のエネルギーを作る創造主、叡智ある存在が適正に育っているか調べる創造主などが存在して、多次元宇宙の創造と運営を行っています。

### ★スピリチュアルな宇宙

#### ○第5レベル 物理的な宇宙を創造し運営する創造主

このレベルの創造主からは、たくさんの階層と役目を持った創造主が存在します。

物理的な宇宙を創造し運営する役目を持ち、私達の物理世界にも関われる創造主たちです。

第1評議会の中心的な創造主達になります。

リーダーは、「源の創造主」「光彩の創造主」で宇宙のスーパーコンピューターを管理する創造主なども含まれます。

#### ○第6レベル 物理的な宇宙を管理しスピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第2評議会、第3評議会の創造主達で、上位の評議会の創造主の指示のもとにスピリチュアルなレベルでも宇宙を創造していきます。

彼等は、上位の評議会の決定を自分達の評議会で議論し、どのような方法で宇宙の創造と運営を実行するか決めて行動します。

#### ○第7レベル スピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第4評議会の創造主で、物理的な宇宙の元となるスピリチュアルな宇宙を作ります。

この宇宙の原型を基に、第3評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達がスピリチュアルな宇宙の細かい創造を行います。

彼等は、マルチな能力を持つ創造主で1人1人が独立して、自由に宇宙の創造を行う権利が与えられています。

#### ○第8レベル 創造された宇宙の管理を行う創造主

第5評議会以上の創造主達は、宇宙の創造は行いませんが、彼等よりも下の評議会の創造主が作った宇宙が適切に運営されているかどうかの検査を行っています。

非常に高い能力を持っていることはもちろんですが、どの次元にも自由に入ることができ、多くの宇宙を見守

っている創造主です。

私が創造主の仕事を探るために地球に降ろされたのは、このレベルの創造主による計画だったようです。

### PART 3 宇宙連合について

宇宙連合は、私達の天の川銀河やアンドロメダ銀河だけでなく多くの星団や星雲が含まれる宇宙をいくつも束ねた大宇宙を見守るグループです。

私達は、宇宙の本当の姿を未だ知りませんが、私達にとって観測可能な宇宙をユニバースと呼ぶのなら、そのユニバースの中に存在している創造主やスターピープル達の連合と考えてもよいと思います。

しかしこのユニバースの中にも計り知れない銀河が存在しているのも事実です。

また、私が語る話はスピリチュアル・レベルの話ですので、実際の天文学の話とはかなり異なるという事だけはご理解ください。

先ず宇宙連合は、宇宙を創造し運営する創造主達とその仕事をサポートするスターピープル達の集まりです。創造主やスターピープルの能力や資質、そしてその働きによって異なる階層の評議会に別れて活動しています。その階層のリーダー的な創造主達とスターピープル達によって評議会の会議が行われ、自分達の行動が決定されます。

第1評議会は、宇宙連合では一番下の評議会として、物理的な宇宙の運営に当たります。

第1評議会は、創造主もスターピープルも最も数が多く、その役目も多岐にわたります。

この評議会に属するスターピープル達は、物理的もしくは半物理的な体を持つスターピープル達ですので、地球を始め物理的な世界を持つ他の星々にも関わることができます。

そして、地球人も含めて、まだ十分に成長していない人々に対して、意識進化のための様々な取り組みを行います。

宇宙連合の第1評議会は、物理世界を持つ多くの銀河や星団に関わり、その銀河や星団、もしくは星々の平和を守るための活動を行います。

第1評議会の中には、アシュタール連合のように独自のグループを作って活動している者達もいますが、彼等も第1評議会の指示のもとに動いています。

また第1評議会は、スターピープルの説明のところでご紹介したように、未発達な星々の種族を成長させスターピープルへと導く仕事も行っています。

この宇宙の中で一つでも多くの種族が愛と叡智に目覚めて宇宙の平和のために貢献できるようにすることが第1評議会の目的でもあります。

第2評議会と第3評議会は、スピリチュアルな宇宙と物理的な宇宙の創造に当たります。

もちろん物理的な宇宙に関しては、第1評議会が中心となって創造活動を行うようですが、第1評議会を指導し、より良い宇宙を創る事が彼等の仕事でもあります。

しかしながら、これからのレポートでもご紹介するように、第4評議会に属する創造主が闇に落ちてしまったことで、第3評議会、第2評議会の創造主達も大きな闇に巻き込まれることになりました。

その結果、第3評議会のほとんどのスターピープル達が闇の世界に閉じ込められ、第3評議会の仕事が順調におこなわれていないという事態に陥っていました。

第4評議会は、スピリチュアル・レベルの宇宙の創造を行い、物理的な宇宙のひな型を作り出していきます。この第4評議会の創造主は、自分が創造する宇宙の全てを任されているので、自分の考えだけで独自の宇宙を作り出すことができます。

第5評議会から上の評議会は、宇宙の創造には関わりませんが、創造主達を指導したり、下の階級の創造主が作り出した宇宙を検査する役目を持つ創造主達の世界です。

第5評議会の創造主達は、宇宙創造に必要なエネルギーを、第4評議会の創造主達に供給します。

第4評議会の創造主が闇に落ち地球の支配を計画していることが分かると、他の評議会の創造主やスターピープル達では対応できないので、彼等が中心になって地球の物理世界を調べ、この創造主達を処理する役目を担ってくれました。

それでは、これらの事を頭に入れた状態で、何故創造主達が闇に落ちていったのか、そして私達が行なっているアセンションはどのような展開を迎えたのか、読み進んでいってください。

# 第1章 「全てを見渡す創造主」の野望

## PART 1 「怒れる創造主」が生まれた理由

宇宙の破壊者である「怒れる創造主」を捕まえて、これですべてが終わったと思っていた私達は、やはりまだ甘かったようです。

「怒れる創造主」が、この地球に仕掛けていた罠が次々と明らかになってきました。

たとえば、「生命を生み出す創造主」に代表される生命創造の働きを持った創造主達が捕えられ、すべて偽物に変えられていましたので、この地球に光ある存在達が生まれる事が予定よりも大変少なくなっており、仮に生まれたとしても、様々な虐待や抑圧を受けるような環境の中に生み出される事になっていました。また非常に愛の度数や叡智が高い子供たちが、脳神経や体が不自由な形で生み出され、この世界で十分な働きができないようにもされていました。

また、地球の人々のスピリットが、地球とはすこし異なる場所につくられた小惑星の中に閉じ込められ、地球人として自由に生きることができないような状況を作られ、「怒れる創造主」の支配をそのまま受け入れるようなコントロールが行われる施設も作られていました。

彼は、地球にいるダークピープルであるオリオン人やグレシャッド人を操り、他の間に落ちた創造主達に命じてその様なことを行っていたようです。

第7評議会の「怒れる創造主」は、評議会とも離反していたために、誰が彼を作ったのかという事はあまり追及されてきませんでした。

私達を地球に降ろし、創造主の立て直しを計画した第10評議会の創造主も、「怒れる創造主」を捕まえることまでしか考えていなかったようですので、私達の役目は終了したことになりますが、どうも気になる事があるのです。

第8評議会には、私達のスピリットととても深い探査役の創造主がいますので、彼に第8評議会の創造主達を集めてもらいました。

そして、第8評議会にもこの宇宙や地球の現状を良く知ってもらう為に、私と美樹さんの記憶を通して、物理世界の様子を見ていただきました。

「第8評議会の創造主の皆さん、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

第7評議会に反乱を起こし、様々な宇宙を混乱におとしいれた「怒れる創造主」は無事捕まりましたが、彼が地球や各宇宙に作り出した混乱もようやく収まる気配を見せています。

皆さんにもご協力いただき、これで宇宙も穏やかになる事とも思いますが、ぜひ私達が経験した記憶なども見ていただき、この物理世界で何が起きていたのかという事をもっと知っていただきたいです。」

第8評議会の創造主達は、私達を通して地球や宇宙の状況をつぶさにみて、現実世界が「怒れる創造主」達によってどれだけ混乱したものになっていたかを理解したようです。



「ところで、第8評議会の創造主様、この「怒れる創造主」はどなたがどのような理由でお作りになられたのか、教えてもらえませんか。」

第8評議会の創造主の1人である「全てを見渡す創造主」が答えてくれました。

「確かにこの「怒れる創造主」は、私が作った創造主ですが、ここまで大変な混乱を起こしていたとは想像もつきませんでした。

彼は、当初、創造主の学びのために作られ、いくつかの異なったやり方で宇宙の創造に関わっていました。

しかし私達は、「怒れる創造主」が適正ではない行動を起こしていることを知って探していたのです。

今回、彼が、皆さんのもとに出てきてくれたおかげで、私達は彼を捕まえることができました。

もし、皆さんの宇宙に対して問題が残っていれば、私達も協力して対処したいと思っています。」

「そうですか、創造主の優しい心遣いに感謝いたします。

実は、彼が作り出した闇のエネルギーが、彼よりも下の評議会ではどうもうまく対処できずに困っております。

それでは、下の評議会と力を合わせて「怒れる創造主」が作り出した大きな闇のエネルギーや様々な問題の処理をお手伝いして下さるようお願いいたします。」

私達はそのように言って帰る事にしました。

## PART 2 「全てを見渡す創造主」と子供の陣痛

しかし、問題はその深夜におきました。

後1か月で出産を迎える美樹さんが突然お腹の痛みで動けなくなってしまいました。

リビングの椅子に手をつけて座り込んだまま、お腹の痛みをずっとこらえてうめいています。

お腹の子供は、少しでも早く地上に出てきて創造主としての仕事をしたいようで早く出てきたいといつも言っているのですが、さすがにまだ予定日まで1か月あります。

時々この時期には、前駆陣痛といって、本陣痛の準備をするための痛みがあるようですが、それにしては痛みも多きようです。

しかも、いつも陽気に私達と会話しているお腹の中の子供の様子も変です。

私は子供に呼びかけます。

「どうしたの、大丈夫、まだ生まれるのは早いよ。

体もきちんと出来上がっていないから、もう少しお腹の中にいないとだめだよ。」

子供は、少し意識がうつろな感じで答えます

「私、早く生まれないといけない、みんなが待っている。

私が早く生まれて光を送らないといけない。」

私は、すぐに誰かが子供の意識を操ってまだ時期でもないのに生れさせようとしている事に気づきました。

現在9か月ですが、未だ体重が2000gを少し上回るくらいなので、生まれてくるには不安です。

「もうすぐクリスマスだからね、ママのお腹の中で一緒にクリスマスケーキを食べる約束だから、クリスマスが終わるまで待っていてね。」

その言葉で、お腹の中の子供も正気に戻ったようです。

子供が好きな「ヤナギムラ」という鹿児島のカーク屋さんのケーキを食べる約束をしたのです。

「そうだ、ママのお腹の中でケーキを食べてから、生まれてくる約束だった。」  
子供の意識が戻ったようです。

私は、ピカフラッシュに、子供の意識を混乱させて陣痛を起こさせたエネルギーを探し出します。  
ロッド星人達も急いで駆け付けてきました。

そのエネルギーは、光51%の世界に上がってきたばかりの人間を經由して送られています。  
その人間は、もともと光49%の世界にいたのですが、様々な闇が取り払われたおかげで、光51%の世界に入ってきたようです。

光50%以下の世界はもうすでに分離しており、光51%以上の世界に来ないと私達に関わる事はできませんので、51%の世界に来たばかりの人を利用して、お腹の子供にコンタクトをとったようです。  
そして、彼と関係がある人々の意識を操って、生まれてくる子供の光を待ち望んでいるように思わせ、そのエネルギーを送らせたのです。

私達は更に、彼を使って、お腹の子供の意識を操作しようとしていた存在を探します。  
すると、彼の後ろにあるエネルギーは、ダークピープル達につながっていました。  
そのエネルギーをさらに伝えていくと、その先には、驚いたことに昼間、対話をした第8評議会の創造主の1人である「全てを見渡す創造主」がいるのです。

私達が突然、第8評議会に上がってきた事に驚いて第8評議会の他の創造主達もやってきました。

「TAKESHIさん、どうしたのですか、」

私と深い関係にある創造主が尋ねました。

「いえ、美樹さんが、急に陣痛のような痛みに襲われたので調べましたら、お腹の子供の意識が、ダークピープル達にコントロールされて、すぐに生れなくてはいけない、と思わされて、陣痛を起こしたようです。  
まだ時期が早いので、子供に言い聞かせて出産には至らなかったのですが、もし生まれていたら未熟児で生まれるところでした。

そして、子供を操っていたエネルギーを調べると「全てを見渡す創造主」に行きついたので。」

第8評議会の創造主達は、「全てを見渡す創造主」を見て不思議そうな顔をしています。

1人の創造主が「全てを見渡す創造主」に尋ねます。

「あなたはどうして、これから生まれようとする子供に、このような事をしたのですか。」

「全てを見渡す創造主」は平然とした表情で答えます。

「私は、「怒れる創造主」が行なったことによって、地球がとても大きな影響をうけたことに大変申し訳なく思っています。

皆さんが一生懸命に守ってこられた宇宙を「怒れる創造主」が台無しにしてしまった事を悲しく思っているのです。

そのために、創造主の子供である美樹さんのお子さんに早く地上に出てもらい、少しでも地球の修復になればと思っただけです。」

私は、彼の説明を聞いても納得できません。

「「全てを見渡す創造主」よ、あなたのお気持ちは理解できますが、子どもの成長は未だ十分ではありません。  
今生れてしまうと子供の体は、まだ未発達ですので、様々な障害が出る可能性もあります。  
この先きちんと育たずに、人間としてしっかりと生きていく事ができなくなったらどうするのですか。」

私が、怒っている様子を見て第9評議会の創造主達もやってきて事情を聞いています。

「全てを見渡す創造主」は、素知らぬ顔で答えます。

「創造主として地上に降りたからには、創造主は、地上の人達を救う事が仕事だと、私は思っています。あなた方の子供であっても創造主ですので、その勤めを果たしたほうが良いのではないかと思います。」

「あなたがそのように言うのなら、あなたが地上に降りるか、あなたの一部を地上におろして見守られたらよいのではないかと思います。第9評議会の創造主達よ、その許可を与えてもらえませんか。」

第9評議会の創造主達も突然の展開で面喰っているようです。

「「全てを見渡す創造主」がそれを望むなら、それもよいでしょう。」

「全てを見渡す創造主」は、第9評議会の創造主達に向かって答えます。

「皆さんが望むなら、私は、私の一部をこの地上に降ろしましょう。」

TAKESHIさん、あなたはどのような形で、私のスピリットの一部を降ろされることを望まれますか。

他の創造主のように、悲惨な社会に降ろし、私のスピリットが苦勞する事をお望みですか。」

彼の皮肉めいた言い方に、私はすこしムッと来たのですが、気持ちを抑えて話します。

「いえ、「全てを見渡す創造主」は、私達の宇宙を良くして下さるために地球に降りてこられます。

今地球では、光51%から55%の中間の世界がとても大切な世界になっています。

この世界の人々を成長させられれば、アセンションしていく地球人を飛躍的に増やす事ができるでしょう。

しかし、この世界にダークピープルや闇の創造主が介入してくれば、多くの人々が捉えられアセンションできなくなります。

この世界に、あなたのスピリットをおろし、この世界のリーダーとして皆さんを導いてもらえませんか。」

「全てを見渡す創造主」は、しばらく考えたあとに答えます。

「わかりました、それでは今の時期に焦点を当てて、しっかりと活躍できるように、少し前の時代にスピリットをおろし、TAKESHIさんのように活躍できるよう準備をいたします。」

そうやって彼は、消えていきました。

### PART 3 「全てを見渡す創造主」の反乱

私は、「全てを見渡す創造主」の元を離れたあと、第8評議会の創造主で私のスピリットと深い関係にある創造主に尋ねました。

「創造主よ、私は、どうも「全てを見渡す創造主」が気になるのですが、彼の役割を教えてくださいませんか。」

「彼は、第7評議会から第5評議会の創造主達と交流して、宇宙の創造や運営の状況を聞き、第9評議会や第10評議会にその報告を行います。

また上位の評議会の創造主の指示を下の評議会の創造主に伝え、どのように宇宙を運営していくかアドバイスを行う立場の創造主です。

言うならば、最上位の創造主と中間クラスの創造主の連絡係りとなる創造主です。」

「そうですか、それは非常に大切な役目の創造主ですね。

それであなたや上位の評議会の創造主は、彼の行いについてどのように評価しているのですか。」

「私達は、彼は非常に優秀でまじめな創造主であると判断しています。」

第8評議会の創造主は、私の質問に少し不安気に答えました。

「全てを見渡す創造主」が、物理地球の光51%から55%の世界に自分の分身を降ろすことになりましたので、私はすぐに第1評議会の創造主とスターピープルを集めました。

私は第1評議会の議長のアルテミスに向かって質問します。

「アルテミスよ、これから光51%から55%の世界の地球人を指導する体制はどうなっていますか。」

アルテミスは、突然の状況の変化に戸惑っているようです。

「この世界は、シリウスのスターピープルを中心に指導を行っていく予定です。」

「シリウスのメンバーのアセンション度数はいくらぐらいですか。」

「彼らは、主に第1アセンションで、今の地球よりも少し進んでいるくらいですので、共に学びあえると思います。」

「第1アセンションというと、彼らは肉体を持って地球に降りていくのですか。」

「そうです、全ての者達ではないのですが、中には、肉体を持って降りる者もいます。」

「そうですか、これからの地球は、未だ何が起こるかわかりません。

特に、「全てを見渡す創造主」のスピリットの一部が地上に降りるとあっては、多くの人々が目覚める可能性もありますが、また反対に大きな妨害が起きる可能性もあります。

第1評議会でも、もっと力を持っているスターピープル達に光51%から55%の世界を守らせたいのですがいかがでしょうか。」

「それは構いませんが、」アルテミスは困惑しながら答えます。

私は、第1評議会のスターピープル達と相談して、新たなグループを組むことにしました。

第1評議会のリーダー的存在であるポラリス星人、アンドロメダ座のスターピープル、そしてアシュタールに、シリウスのスターピープルを組み合わせたグループです。

「皆さん、本当に申し訳ないのですが、このグループを中心にして「全てを見渡す創造主」が降ろしたスピリットの一部となる地球人をサポートしてくれませんか。」

第1評議会の仲間達は快く引き受けてくれます。

私は、「全てを見渡す創造主」にも呼びかけます。

「あなたのスピリットは、きっとこの地球で素晴らしい仕事をしてくれると思いますので、このメンバー達をサポートにつけますがよろしいでしょうか。」

「全てを見渡す創造主」は何も言わずうなずいています。

そして翌朝、12月20日の事、私の頭の中でキンキンと耳鳴りがします。

このところ闇の創造主が仕掛けた「人々の意識をコントロールするための機械」によってずっと耳鳴りがしているのです。

見つけた機械を壊すたびに、耳鳴りは一時的に良くなるのですが、またしばらくすると他の機械が作動して耳鳴りが始まるのです。

私は、この原因を探すためにピカフラッシュ達を呼び寄せました。

ピカフラッシュは、地球のいくつもの次元の中を探し周り、地球の物理次元の中に、人々の意識をコントロールする機械を見つけました。



それも、ネガティブな感情を沸き起こらせ、闇のエネルギーの虜にしてしまうような波動を持っているので、非常に厄介です。

調べていくうちにこの機械を動かしているのが、あの「全てを見渡す創造主」が降ろした人間と関わりがある事が分かってきました。

私はすぐにポラリス星人を呼んで「全てを見渡す創造主」の1部が、地球でどのような活動をしているか聞いてみました。

私が、ポラリス星人達をサポートにつけた狙いは、「全てを見渡す創造主」の1部をサポートするだけでなく、彼の行いを見張らせるためでもありました。

「彼は、現在はエンジニアとして普通の仕事を送っているようで、特別問題があるところは見受けられません。」とポラリス星人は答えます。

しかし、ロッド星人やグルナレッドが調べたところ、大変なことが分かってきました。

「TAKESHIさん、彼の事をしらべると、どうも裏で隠れて動いていることが分かりました。

皆さんの言葉でいえば秘密工作員ですね。

表向きは普通のエンジニアのようですが、裏では、地球人やスターピープルをコントロールするための機械を作動させて、地球人に特殊なエネルギーを送り、彼が属している組織に従わせようとしているようです。

そして一部のダークピープルとつながり、創造主レベルの技術を使用して、このコントロール装置を作りあげたようです。

もしかして、彼自身が、ダークピープル達が地上で動くためのゲートになっているかもしれません。

TAKESHIさんに対抗して、ダークピープルを地上で働かせるために、彼を作り出した可能性もあります。」

その話を聞いたポラリス星人はびっくりして「う～、騙された！」と悔しそうにうめいています。

彼をサポートする立場に任命したスターピープル達は、「全てを見渡す創造主」から、地球に降ろしたスピリットの一部の働きが見えないようにコントロールされていたようです。

ロッド星人達は、これらの機械が地上にたくさん配置されて、地球の人々の思考がコントロールされていることを危険に思い、この機械を次々と破壊して行っています。

しかし自体はそれだけではないようです。

アシュタールのエレナさんから、第1評議会の一部の創造主とスターピープルやマスター達が争っているという連絡がはいりました。

「TAKESHIさん、こちらでも大変なことが起きています。

「時を司る創造主」が、時間軸に変更を加えて、時を戻そうとしているのですが、それを止めようとするスターピープルやマスター達ともめごとが起きています。」

私は、「光彩の創造主」と共にその場に行くと、どうやら「時を司る創造主」が評議会の承認も得ずに時を戻そうとしていたことが分かりました。

第1評議会の代表である「光彩の創造主」も自分が知らない所でこのような事が起きていたことに慚然としています。

私達はすぐに「時の創造主」のもとにかけつけます。

「「時の創造主」よ、いったい何が起きているのですか、私達に相談がないまま、時間を動かすのは良くない事だと分かっているでしょうが、誰からの指示ですか。」

「時の創造主」は、困ったような顔をして答えます。

「これは第2評議会の時間に関わる創造主からの直接命令でしたので、私は、評議会の許可がなくても、その指示を実行しなくては行けませんので、実行させてください。」

「時の創造主」が、行動を起こそうとするとマスターやスターピープルが、「やめてください。」と言いながら創造主の活動を阻止しています。

マスターが言うには、彼が時を戻したら、私達のアセンションは全く無意味になるので、止めなくては行けないと考えたようです。

私はすぐに、第2評議会、第3評議会の「時に関わる創造主」を呼びだしました。

彼らも、上位の創造主から指示を受けたために、下位の創造主に時間を戻すように伝えたという事なので、私達は、創造主達を引き連れて、第4評議会の「流れを作る創造主」の元まで上がって行きました。

「流れを作る創造主」は、私が来た事に気づくと、私のもとにすぐやってきました。

「TAKESHIさん、申し訳ありません。

私にも理解できない事なのですが、上の評議会の創造主様が直接来られて、地球のアセンションをやり直すから時間を戻してくれと言われたのです。

私は、皆さんが苦勞して、闇の創造主達を片付けながら、アセンションを実行されている事を知っていますので、アセンションをやり直すと大変なことが起きるのではと思い、創造主様に、もう一度考え直してもらおうようにお伝えしたのですが、創造主様は、考えを変えてはくださりませんでした。

私は、創造主様の命令なので、その指示を下の創造主に伝えましたが、一体何が起きているのでしょうか。」

「流れを作る創造主」は、とても申し訳なさそうな顔をして私に謝罪します。

そこに、第8評議会、第9評議会の創造主もやってきました。

「「流れを作る創造主」よ、すぐにその指示を取り消してもらっていいですか、これは大変な策略が働いているようです。」

「わかりました、皆さんからの指示であるならば、時を戻すという指示を取り消すことにしましょう。

実は、私も不安だったのです。

もし時をもどして、TAKESHIさん達が同じように活動していなければ、私や仲間の創造主達は生き返ることができずにそのままスピリットを分断され、長い間、闇の中に閉じ込められるのではないかと思ったからです。」  
そういつて「流れを作る創造主」は、下位の創造主を呼んで、時を戻す指示を取り消すように伝えました。

「「流れを作る創造主」よ、ありがとう、実は私もその事を心配していたのです。

ここまで苦勞して、闇の創造主やダークピープルを処理してきたのに、それがまたすべて復活してしまう事になりますから、この宇宙は大変なことになります。

それで、誰からこの指示を受けたのか、教えてもらえますか。」

「はい、第8評議会の「全てを見渡す創造主」様です。」

どうやら「全てを見渡す創造主」が、裏で操っているようです。

更に上の評議会の創造主に確認しても指示は受けていないようですので、物理世界に直接かかわる第4評議会の「流れを作る創造主」にその指示を出したようです。

私達はすぐに第8評議会に上がって行きました。

#### PART 4 「全てを見渡す創造主」の隠された野望

私達が、第8評議会に上がっていくと、私達の後ろから下位の評議会の創造主やスターピープルのリーダー達も真相を聞くためについてきています。

皆さん、自分達の宇宙を守るのだという、強い信念が生まれてきているようです。

私は「全てを見渡す創造主」を前にして話し始めます。

「「全てを見渡す創造主」よ、地上では「時を司る創造主」が、地球の時間を戻そうとして大騒ぎになっていますが、これはあなたが指示したとのことですが、それは本当ですか。」

「全てを見渡す創造主」は平然とした顔で答えます。

「そうです。私が指示しました。」

「それは、第8評議会で相談したうえで決定したことですか。」

「いえ、私が単独で決めて指示を出しました。」

この言葉に、第8評議会の創造主達は動揺しています。

私は、第8評議会の他の創造主に聞いてみました。

「第8評議会では、このような事を一人の創造主が単独で決めて行ってもよいのですか。」

1人の創造主が答えます。

「いえ、第8評議会の創造主による協議も必要ですが、その宇宙に関わっている評議会の創造主達との合意が必要です。」

これは、私達も知らない事でしたので、不当なことと思われれます。」

第8評議会の創造主達は、まさか「全てを見渡す創造主」がこのような事をするとは考えもしていなかったようです。

「それでは、「全てを見渡す創造主」よ、何故このように自分勝手に、地球の時を戻そうと思われたのですか。」

「全てを見渡す創造主」は、第9評議会の創造主達をちらっと見えています。

自分を生みだした創造主達も来ていますので、嘘は言えないと思ったようです。

「それは、私が地球のアセンションをやり直そうと考えたからです。」

「何故、あなたが自分自身の手でやり直そうと考えたのですか。」

「私自身が行ったほうが、うまく行くと考えたからです。」

「全てを見渡す創造主」のこの言葉に、多くの創造主達が不満を現します。

「地球のアセンションは、もうすでに完成間近ですが、それをやり直すという事は、今迄に片付いた問題を再度リセットするという事ですか。」

闇の創造主達もすべて復活することになりますし、助け出された創造主やスターピープル達も再び闇の中に戻りますが、それでも良いのですか。」

「それでもかまいません。」

私が、この宇宙に新たな秩序を作ります。」

第8評議会の創造主達も、さすがに彼の言葉を聴いて「全てを見渡す創造主」の隠された野望に気づき始めたようです。

「「全てを見渡す創造主」よ、あなたは、この宇宙を支配したいとお考えなのですか。その様なことをしても、ここにいる創造主達はあなたには従いませんよ。」

「全てを見渡す創造主」は、薄気味悪く笑います。

「全ての創造主は、上位の創造主である私に従わなければなりません。私に従わなければ、この宇宙を追い出されるまでです。」

この言葉に、全ての創造主が怒っています。

「それでは、ここにいる創造主よ、皆さんの中で、「全てを見渡す創造主」に従おうという創造主はいますか。いたら教えてください。」

もちろん従おうという創造主などいる訳がありません。

1人の創造主が立ち上がって言います。

「私達は、たとえ上の評議会の創造主であろうとも、横暴なことを行う創造主には団結して戦います。今迄は、上の評議会の言いなりでしたが、私達はもっと自分達の考えを、上の評議会の皆さんにも伝えていこうと思います。」

多くの創造主が共に立ち上がります。

その様子を見た「全てを見渡す創造主」は、冷やかに笑っています。

私は、地上に降りた彼の一部の事にも言及します。

「あなたが地上に降ろした一部も、ダークピープルや地球の権力者と協力して、人々の意識をコントロールするための機械を作り、地球の人々やスターピープル達をコントロールしているようですが、これもあなたの指示ですか。」

「いえ、私の知らないことです。」

「全てを見渡す創造主」はとぼけています。

「ダークピープルと彼は、共に協力しているようですね、

それに、美樹さんが、予定よりも早い陣痛を起こした時に、ダークピープルも関わっていましたが、あなたはそんな存在とも仲が良いようですね。」

「はい、もちろんです。

私は、ダークピープルもスターピープルも共に栄えるべきだと考えております。」

「もちろんその様な考え方もできるでしょうが、私達の地球も、ダークピープルを通して闇の創造主から大きな支配をうけてきました。

それも必要なことだといわれるのですか。」

「それも皆さんの学びの役に立っているのではないですか。」

「全てを見渡す創造主」は、あざ笑うように答えます。

私は、「全てを見渡す創造主」の処理を第9評議会の創造主達にゆだねることにしました。

「私達は、「全てを見渡す創造主」の言葉を聴いて、創造主としてあるまじき事であると考えています。あまりにも独断的で他の者達に対する思いやりのない態度に幻滅しました。

「全てを見渡す創造主」は、自分で光に帰るよう決断されたほうが良いと思います。」

「全てを見渡す創造主」はとても不服そうな顔をしています。

「私は何も悪いことをしていませんので、光に返される必要はないと考えています。創造主として、自分が理想とする世界を作るのは当然のことです。」



それを行う事が悪というのなら、全ての創造は悪であるとおもいます。」

第9評議会の創造主達が言葉を詰まらせます。

「「全てを見渡す創造主」よ、創造主の基本はこの宇宙に愛をもたらすことです。

あなたの中には、支配欲しかないように私には思えます。」と私は彼に向かって言いました。

「全てを見渡す創造主」が、すごいエネルギーで私を脅してきますが、第9評議会の創造主達が私を守ってくれます。

第9評議会の創造主達が、「全てを見渡す創造主」と話を始めました。

「「全てを見渡す創造主」よ、私達は、あなたが自発的に光に帰る事を決断してくれることを望んでいます。それでなければ、私達は強制的に、あなたを光に返さなければなりません。」

「いえ、私は、自分に課せられた使命を全うしているだけです、私は正しい事をしていますので、責められる事は一つありません。」

しばらく第9評議会の創造主達と「全てを見渡す創造主」の話し合いが続いています。

彼が自分の支配欲を満たす為に「怒れる創造主」を作り出したことも明らかになりましたので、どちらにしても、彼は光に帰る事になるでしょう。

私は、彼の言葉が気になりますが、ここはもう第9評議会の創造主達にまかせて、地球の後片付けに行く事にしました。

## 第2章 狂気に満ちた「全てを見渡す創造主」の罭

### PART 1 支配されていた創造主達

「全てを見渡す創造主」は、第9評議会の創造主達によって光に返されたようですが、私の中では、彼の言葉が胸に残ります。

地球に降ろされた彼のスピリットの1部である作員は、創造主としての能力や資質をすべて奪われて、ただの地球人として生きていく事になりました。

彼とダークピープルが作り上げた機械も、ロッド星人やグルナエルたちによってすべて破壊されたようです。

これですべてが終わったかのように思えたのですが、さらに「全てを見渡す創造主」が仕組んだ罭が炸裂していきます。

私達は、最初に、人々の理性を少しばかり狂わせる機械を発見しました。

これは「全てを見渡す創造主」が、地球のオリオン星人やダークピープルを使って稼働させていたようです。人々の意識を大きくコントロールするのではなく少しずつ変えていくので目立ちにくく、発見が難しいのです。しかし、少しばかりの理性の欠如や判断の誤りこそが、大きな戦争や自然破壊、大量虐殺を生みだしていた事を私達は知っています。

私達が、この機械の処理をしている間に、エレナさんから連絡が入りました。

「TAKESHIさん、またまた大変です。

創造主達がお互いのつながりがなくなってしまい、相手を認識できないようになっていました。

今までは、第1評議会と第2評議会も連携が取れるようになっていたのですが、今では全く連携が取れません。他のスターピープルに聴いてみたのですが、自分が所属している評議会の創造主同士もお互いのつながりが弱くなっているうえに、異なる評議会の創造主とは全く連絡が取れないようです。」

これには困りました。

私も、それぞれの評議会の創造主を呼びだしてみても、自分のスピリットと深いつながりがある創造主達とはかろうじて会話ができるのですが、それ以外の創造主達とは全くコンタクトが取れないのです。

美樹さんも、いつもは創造主達の姿が見えているのですが、今は全然見えないと言っています。

調べてみると、第7評議会と第8評議会は無事なのですが、第6評議会のから下の創造主は、お互いの連絡も取れず混とんとしているようです。

私は、すぐに各評議会のスターピープル達を集めて原因を探る事にしました。

創造主同士の絆が立たれたのはなぜか、そして、すべての評議会は、私を通してつながっていますので、各評議会と私自身のつながりが絶たれたのはなぜか、調べてもらう事にしました。

「スターピープル達よ、大変な事態になってしまいました。

すぐにでも原因と対処法を探し出さなければなりません。

それぞれ自分の評議会の創造主に、異変がないかを調べてください。

特にコントロールチップや闇のエネルギーが創造主に流れ込んでいないか、創造主のスピリットがどこかに捕らわれていないか調べてください。

あるいは、各評議会に意識をコントロールする機械がないか調べてください。」

多くのスターピープル達が、各評議会に戻り、一斉に捜査を始めました。

私はその間に、第8評議会の創造主達と対策を話し合っています。

「これは一体どうしたんでしょうか。

あの「全てを見渡す創造主」が仕組んだことでしょうか。」

1人の創造主が不安気に言います。

第8評議会の探査役の創造主が答えます。

「おそらくそうでしょうね、私達の知らない所で、彼が様々な計画を立てていたのだと思います。

私達はもっと慎重に調べるべきでした。

「全てを見渡す創造主」には、未だ仲間がいるかもしれません。

私達は、それを急いで探しましょう。」

私達が、その様な会話をしているところに、第6評議会のスターピープルが戻ってきました。

「創造主様、原因が見つかりました。

やはり創造主達の中にコントロールチップが入れられており、そのおかげでお互いのつながりが切断され、創造主達が、お互いをきちんと認識できないようになっていたようです。

そしてもう一つ、第6評議会の創造主達の中に偽物が混じっており、彼がその作業を行っていたようです。」

私と創造主達はすぐにその場所に向かいました。

そこでは、1人の創造主もどきの物が、スターピープルに捕まえられています。

創造主達は、コントロールチップを取りはずしたものの、その影響が強く残っているようで、意識が呆然としているようです。

私は、この第6評議会のスターピープルにお願いして他の評議会の創造主達のコントロールチップを外して、偽物を探してくれるようにお願いしました。

高次の創造主が作った機械類は、下の評議会の創造主やスターピープルでは、見つける事ができないからです。第6評議会のスターピープル達はすぐに他の評議会のもとに走っていきます。

私達は、捕まえられた偽物の創造主を問い詰めます。

「あなたは、一体誰から作られたのですか。」

偽物の創造主は無然とした表情で答えます。

「私達は「全てを見渡す創造主」様から作られましたので、創造主様に従うようになっています。」

「皆さんは、この評議会の創造主達に対してコントロールチップをつけていましたが、何故ですか。」

「それは、すべての創造主が、「全てを見渡す創造主」様に従う為につけたのです。」

第8評議会の創造主達は、その言葉を聴いてショックを受けています。

「全てを見渡す創造主」が、私が彼を問い詰めていた時に、自信を持って「全ての創造主が自分に従う」と言っていた言葉を思い出しました。

彼はすでに、全ての創造主達にコントロールチップを入れ終わっていたので、時が来たら、自分の意のままに創造主達を支配しようと思っていたのです。

これでは、いくら創造主が団結しても、「全てを見渡す創造主」に逆らうことはできません。

彼が言う事は嘘ではなかったようですが、やる事があまりにも狂気に満ちています。

「全てを見渡す創造主」は、地球の独裁者と同じように、従わないものは、本当にこの宇宙から追い出すか殺していたでしょう。

おそらく、私達や「全てを見渡す創造主」に対抗するスターピープル達も捉えられて殺されていたかもしれません。

すでにそれは第3評議会で「道を作り出す創造主」が行っていたことです。

しかし、私達は同じ事を繰り返させるわけにはいかないのです。

私達は、第6評議会の創造主達からコントロールチップを取りはずし、にせ物として紛れ込んでいた存在を光に返していきました。

他の評議会でも、状況はほとんど同じようです。

創造主とスターピープル達がコントロールチップをはずし、偽物を処理していきます。

このコントロールチップが外され、偽物が処理されたことにより、創造主同士のつながりも戻り、コミュニケーションも取れるようになってきました。

また、私とのつながりも正常なものになってきましたので、各評議会のつながりも復活してきたようです。

## PART 2 入れ替えられた第1評議会の創造主

しかし、問題は未だ残りました。

第1評議会の中でも物理世界に関わる創造主達の様子がおかしいのです。

美樹さんの目にも、彼らの姿がはっきりと映らないようですし、意識もきちんと通っていないようです。

特に生まれてくる子供の意識の母体となる「輝きの創造主」の系列の創造主の様子が、まるで機械的で親しみがないのです。

そして「輝きの創造主」と同じ位置にある「光と闇の統合の創造主」「永遠なる時の創造主」の様子もおかしいようです。

エレナさんに訪ねても、彼らだけでなくここ最近の第1評議会の創造主達は、一緒に仕事をしていても、何か気が抜けている様な感じで違和感があったことを伝えてきます。

私はロッド星人達に、第1評議会の創造主達を調べてもらいました。

「TAKESHIさん、彼らはどうも本物ではないようです。

おそらく、「怒れる創造主」か「全てを見渡す創造主」によって作られた創造主が成り代わっているようです。」

これには、私達も驚きました。

評議会の中に偽物を紛れ込ませ、創造主にコントロールチップをつけてコントロールするだけでなく、第1評議会の多くの創造主を自分の意のままに動く偽物とすり替えていたとは、私達も考えもつきませんでした。

そして、その事に気づかせないように、私達の意識も操作していたようです。

今、「全てを見渡す創造主」も「怒れる創造主」も光に返していなくなりましたので、彼等が行ってきた事が明るみに出て、私達はそれを処理することができますが、もし、彼らを見つけだすことができずそのままでしたら、地球はもちろん、この宇宙そのものが「全てを見渡す創造主」達の手落ちていたことでしょう。

第1評議会の創造主達の異常を聞きつけて上の評議会の創造主達もやってきました。

私は、ピカフラッシュをお願いして、本物の創造主達を探してもらいました。

すると彼らは、別の世界にいて、そこに閉じ込められたことにも気づかずにそこで活躍していました。

私の姿を見て、別の世界に閉じ込められていた第1評議会の創造主達の方が意外な顔をしています。

「TAKESHIさん、どうしたのですか、慌てた様子で。」とのんびりと答えます。

「実は、この世界は、闇に落ちた創造主達が作った世界で、皆さんは本当の地球から連れ去られてここにいるのですよ。

すぐに戻りましょう。」

すると彼らの周りのホログラムのような映像がなくなり、ただの空間が現われてきました。

自分達がだまされていたことに気づいて、今度は彼等の方が慌てだしました。

彼らを連れて、私達は地球に戻ってきたのですが、ロッド星人がつぶやきます。

「最近地球の物理次元には、たくさんの機械が設置され、人々をコントロールするようになっていた事がとても不思議に思っていたのですが、創造主達が連れ去られていた間に、偽の創造主が地球を支配し、彼等自身が、機械の設置に関わっていたようです。

それでなければ、私達の目を盗んで、これだけたくさんの機械を設置できないでしょう。」

エレナさんも、ロッド星人の言葉に同意します。

「私達も、本当に騙されていました。

偽物の創造主と仕事をしていたから、いつも世界の分離がうまく行かず、ダークピープルや闇に落ちた創造主の分身達が、光が多い世界に紛れ込んだりしていたのですね。

あ～、もう一度仕事をやり直さなくてはね。」と大きなため息をつきます。

まさに巧妙に仕掛けられた罠です。

### PART 3 宇宙の混乱を引き起こした創造主の言葉

この混乱が収拾した後、私は第8評議会に上がり第9評議会の創造主達も交えて話をしました。

何故これほどまでに「全てを見渡す創造主」が、周到な準備をしていたか調べる為です。

私は、第9評議会の創造主達にむかっていいました。

「私達は、まさか第8評議会の創造主である「全てを見渡す創造主」が、「怒れる創造主」を作り出しただけでなく自分自身でもこのように、宇宙を支配するために周到な準備をしていたことに非常に驚いています。他の評議会の創造主達も、皆さんの評議会が行なった事に対して大きな不満を持っているようですが、何故このような事が起きたのか教えてもらえませんか。」

第8評議会の創造主達も第9評議会の創造主達も、考えているようですが、理由はわからないようです。

「怒れる創造主」に関しては、「全てを見渡す創造主」が創造主達に学びを行わせるために、少しだけ闇が多い創造主を作った事はわかりましたが、「全てを見渡す創造主」が何故、このように多くの創造主をコントロールして宇宙を支配しようとしたのかが分からないのです。

その時第9評議会の1人の創造主が、恐る恐る話し始めます。

「もしかしたら、私の不要な一言が、「全てを見渡す創造主」にこのような事をさせたのかもしれない。」



創造主達が一斉に彼の方を向きます。

「いえ、私はそれほど大きな意図もなく言った言葉なのですが、「全てを見渡す創造主」に、この宇宙の創造主がひっくりかえるようなことが起きれば、創造主達も成長するだろうな、といったことがあるのです。もしかしたら、「全てを見渡す創造主」は、私の言葉を、私からの指示と思って、「怒れる創造主」を作ったり、下の評議会の創造主達を混乱させる事をしたのかも知れません。」

第9評議会の他の創造主は、この軽はずみなことを言った創造主を見てあきれています。

先日、「全てを見渡す創造主」を問い詰めた時に、自分は悪くないと盛んに言っていました。彼が第9評議会の創造主の指示によって動いていたとするならば、確かに彼は悪くありません。

もちろん自分も支配欲を出してしまった事は問題ですが、上位の評議会の創造主の指示を、彼はしっかりと実現していただけた事です。

彼の言葉に、第9評議会の創造主達は頭を抱えて困っています。

宇宙の混乱をすべて「全てを見渡す創造主」のせいにしてしまった事は、自分達の大きな過ちです。

「全てを見渡す創造主」も、上位の創造主の手前、自分が指示を実行しただけだとは言えなかったのでしょうか。可愛そうなことをしてしまいました。

しかし、この軽はずみな言葉を口にした創造主は、すべてが自分の言葉から始まったことを知り、どうしたらよいか、困っています。

「皆さん、本当に申し訳ありません。

私の軽はずみな言葉のために、この宇宙を破壊してしまうようなことをしでかしてしまいました。

私は、この現状を少しでも良くするために、一生懸命働きますのでお許し下さい。」

彼は小さくなってひたすらあやまり始めました。

第9評議会の創造主達も、彼のその様な姿を見て「今ではもう取り返しがつかない事をしてしまった。」と考えているようです。

これから、宇宙の修復のために、しっかり働いてもらうという事で、話は終わったようです。

しかし、その話を知った創造主やスターピープル達の間にも、上位の創造主に対して「大きな怒り」が生まれてきます。

## 第3章 「絶望の宇宙」との接触

### PART 1 忘れ去られた創造主

私達は、創造主達からコントロールチップを取りはずしたり、すり替えられた創造主達を取り戻したりすることに、一生懸命働いていました。

その間に、見えない恐怖が近づいてきていたのです。

20日の事、私は、徐々に耳鳴りがひどくなっていく事に気づきました。

美樹さんも、体の痛みが次第に大きくなっているようです。

これは大きな地震か、大きなネガティブなエネルギーが近寄っている時に起こる兆候です。

私は、いつものように、ピカフラッシュを走らせると、不思議な存在に出くわしました。

それはこの世界の創造主でもなくスターピープルでもなく、ダークピープルでもない存在ですが、彼からはとても大きなネガティブなエネルギーがあふれています。

しかし、彼のエネルギーは、私達の宇宙の物ではないようですので、とても分かりにくく捕まえるのに時間がかかりました。

私達は、第8評議会の創造主達にも来てもらい、この存在を探してもらいます。

そして数名の創造主達が捕まえた創造主を見て、ひとりの創造主が、信じられないという顔をしています。

「この者に見覚えがあるのですか。」と私は尋ねました

「ええ、随分昔の事になりますが、宇宙を創造していたとても古い創造主がいたのですが、その創造主はもう年を取ったからという事で引退してしまいました。

この者は、その創造主の部下のような存在です。

その創造主が引退してから、彼が作った宇宙も、そして彼の部下も、私達の記憶から遠ざかり、その存在さえも忘れていたのです。」

数名の創造主もその事を思い出したようで、懐かしそうに見ています。

「それ以来、私達は、この宇宙の事も、彼の事も忘れていたのですが、このタイミングで彼があらわれたことに大変驚いているのです。」

創造主達は、彼が所属している宇宙を調べているようです。

「これは、大変な宇宙になっています。

おそらく、彼は頼りにしていた創造主を失い、たった一人でこの宇宙を作りあげていたようです。

本来であれば、引退した創造主が行なうべきことだったのですが、彼はたった一人で孤独に耐えながらこの宇宙を作っていたようです。

そのために、この宇宙は孤独と絶望に満ち溢れ、愛も希望もない宇宙になっています。

創造主達も、私達の宇宙に似せて評議会ごとに配置されているのですが、どの評議会の創造主も、闇にまみれ絶望の中で仕事をしています。」

もう1人の創造主が言います。

「これは、私達の責任かもしれません。」

創造主が引退したために、彼が作った宇宙も、彼の部下も顧みることが無く放置してしまった私達の過ちではないでしょうか。

彼と彼の宇宙を救ってあげる方法はないだろうか。」

創造主達が考え込んでいます。

美樹さんも彼の宇宙を覗き込んでいるようですが、あまりにも闇が深く愛も希望もない世界です。

あまり長く関わっているのも良くない気がします。

「それでしたら皆さん、先ず彼の孤独を癒し、愛のエネルギーを彼の宇宙に満たす為に、「愛の創造主」を生みだしてあげて彼の孤独を癒してあげたらどうでしょうか。

そして彼の宇宙に愛を満たし、失望や悲しみのエネルギーを消し去るのです。」

創造主が、彼にそのことを訪ねています。

彼もうれしそうに答えてくれます。

「皆さんとお会いできて大変うれしく思います。

私は、私が親のように慕っていた創造主がいなくなり大きな失望感と孤独にさいなまれていました。

相談する相手もなく、全ての光が、いつしか闇に変わっていきました。

しかし、私は、親の創造主が私に残してくれた宇宙で生きていかなければならないと思い、彼の言葉や仕事を思い出しながら宇宙を作り続けてきました。

そしてこの宇宙が長い時間をかけて出来上がったのですが、この宇宙には光もなく愛もありません。

ただ大きな夜のとばりのように孤独と失望が満ち溢れているのです。」

私達は、この創造主の部下の思いが伝わってくるようで悲しくなりました。

「しかし、そのような私に、ここに来ると、私の宇宙を助けてくれる人がいるからと言われてここにやってきました。

私の宇宙のために、愛の創造主を作ってくださいのなら、喜んでお受けしたいと思います。

私も孤独から解放されますし、私の宇宙も愛と希望に満ちあふれてくることでしょう、ありがとうございます。」

創造主達は、これで彼の事を助けることができると思い、喜んで「愛の創造主」を作り彼に与えました。

創造主の部下である創造主も喜んで、「愛の創造主」を連れて自分の宇宙に戻っていきました。

しかし、一体誰が、何のために、彼にここに来るように言ったのでしょうか、私には疑問が残ります。

## PART 2 押し寄せてくる絶望の宇宙のエネルギー

私の問いに対する答えはすぐに出ました。

私がアセンションブックの執筆に集中している間に、私達の宇宙に大きな異変が起こっていたのです。

絶望の宇宙の創造主が、私達のもとにきて交流している間に、私達の宇宙と彼が作り出した絶望の宇宙が境界を越えてぶつかり合い、絶望のエネルギーが私達の宇宙に流れ込んでしまったのです。

そのエネルギーは、彼と接していた第8評議会に最初に流れ込んできました。

そして、創造主達のエネルギーを奪い去り、創造主達を絶望に陥れていきます。

その絶望のエネルギーは、第8評議会からどんどん下の評議会にも流れてきます。

第7評議会、第6評議会と流れ込み、創造主達のエネルギーが奪われ、創造主達もスターピープル達も混乱していきます。

更にそのエネルギーは第5評議会を経て第4評議会、第3評議会にも入ってきました。

絶望の宇宙の創造主は、本来とても優しい創造主ですので、自分達の宇宙と私達の宇宙が接したことで、そのようなことが起きるとは思ってもいなかったようです。

ただ自分が来た事でこのようなことが起きてしまった事にとっても大きな後悔をして何か助けになる事はないかと心配しています。

先ほどの軽はずみなことをやってしまった第9評議会の創造主が、こうなったのも自分の責任だからと言って一生懸命に働いているようですが、絶望のエネルギーは、どんどん私達の宇宙を呑み込んでいっています。そして創造主達の中にあつた信頼や愛のエネルギーを奪い去り、創造主達の意識をもうろうとさせています。そして大きな絶望や恐怖が創造主に入り込むと、創造主の中にたまっていた大きな怒りや不満のエネルギーを爆発させていきます。

私が、この宇宙の異変に気付いたときは、絶望のエネルギーが第2評議会に入ってきた頃のように。エレナさんから連絡が入りました。

「TAKESHIさん、緊急事態です。

先ほど関わった絶望の宇宙の創造主から流れ込んできたエネルギーが私達の宇宙を混乱させています。そのエネルギーは、未だスピリチュアル・レベルですが、これから第1評議会に入り、物理世界の宇宙に入ると、絶望のエネルギーが地球に生きている人達全てに影響を与え、光を失ってしまう事になりそうです。創造主達もスターピープル達も手の施しようがなく困っています。」

私はすぐに状況を確認していますが、このエネルギーが物理世界にはいる前に止めなくてははいけません。

私は最初に、絶望の宇宙の創造主をお願いして、私達の宇宙から遠く離れてもらう事にしました。

これで、新たな絶望のエネルギーが入ってくることはないのですが、今、私達の評議会の中に流れ込んでいるエネルギーを消去させる方法が見つかりません。

私達は、とりあえず第1評議会の物理的な宇宙にこのエネルギーを入れるとまずいという事で、第2評議会と第1評議会の間で創造主とスターピープルで光の壁を作り、自分達の団結力を高めて、この絶望のエネルギーを押し返すように指示しました。

しかし、上位の評議会の状況を見ても、これで防ぐことは難しいでしょう。

私はその時一つのアイデアを思いつき、「宇宙の大地のマスター」と「ゴールドシフアー」そして多くの魔法使い達を呼び寄せました。

「宇宙の大地のマスター」、「ゴールドシフアー」よ、私達の宇宙が絶望のエネルギーによって破壊されかけています。

この第1評議会と第2評議会の間にある光の壁を突破されたらおしまいです。

そこであなた方に緊急のお願いがあるのですが、魔法使い達と共に、創造主達が作っている光の壁の前に、大きなブラックホールを作ってもらえませんか。

絶望のエネルギーが、第1評議会の光の壁に到達する前に、大きなブラックホールの中にそのエネルギーが流れ込み、絶望のエネルギーが、誰もいない場所に放出されるようにしてもらいたいのです。」

「宇宙の大地のマスター」達もこの状況を見て、私達の宇宙が壊滅するのではと心配しているようです。すぐに、仲間達を呼び寄せ、魔法使い達と共に、大きなブラックホールを創造主達の光の壁の前に作り始めました。

「宇宙の大地のマスター」は、私達の世界と自分が存在している「宇宙の大地」をつなぐ通路としてブラックホールのように見える暗黒の通路を作っています。

普通の人々は、そのブラックホールのような通路を恐れて誰も近寄らないのですが、時折、その中に閉じ込められる者達がいるので、私達はよく「ゴールドルシファー」にお願いして、ブラックホールの中を探してもらいます。

「宇宙の大地のマスター」と「ゴールドルシファー」は、ブラックホールを作るのがとても得意なのです。そして絶望のエネルギーは、ブラックホールのエネルギーととてもよく似ているので、ブラックホールがあれば、必ずその中に入っていくと、私は考えたのです。

創造主の光の壁の前に大きなブラックホールが開きました。

そして、光の壁の直前まで来ていた絶望のエネルギーはそのままブラックホールの中に流れ込んでいきます。とても大きな滝のように、絶望のエネルギーが轟々と音を立ててブラックホールの中に落ちていく様を見て創造主達が大喜びをしています。

この絶望のエネルギーは、流れるたびに創造主達の希望などを奪い去り、どんどん大きくなっていくのです。特に物質的や半物質的な体を持つ者達に対しては、そうでない物に比べてさらに大きな力で襲い掛かってくることでしょう。

このエネルギーが第1評議会を突破して、物理的な宇宙の中に流れ込んだら、そのすさまじいエネルギーのために、多くの人々や生命達のエネルギーが奪われ、地球も宇宙も闇におおわれてしまう可能性もあります。

しかし、このブラックホールの中に流れ込まずに、直接第1評議会の中に流れ込んでくるエネルギーも少しばかりありますので、創造主やスターピープルは、気持ちをひとつにして食い止めようとしているようです。

私はすぐに、地球の前にもブラックホールを作ってもらいました。

第1評議会を通過したエネルギーが向かうのは、第1評議会と大きな光の通路で結ばれた地球のほうです。

アセンションの前に、この地球に絶望のエネルギーが流れ込んで来たら大変なことになると思います。

それほど多くはないのですが、第1評議会を突破した絶望のエネルギーは、今度は地球の前につくられたブラックホールの中に飲み込まれていきます。

そして、地球の中にはわずかなエネルギーだけが降りてきます。

光55%以下の世界の人々には、まだ大きな不安や恐れ、失望などのエネルギーを持っている人もいますので、その様な人は、このエネルギーの影響を受けて、感情が不安定になり、抑え込んでいた感情が噴出してくるようです。

しかし、当初予定されていたよりは、はるかに少ない量のエネルギーで済んだのは幸いです。

これも、どうやら「全てを見渡す創造主」が仕組んだ罠のようです。

第8評議会が「絶望の宇宙の創造主」に確認したところ、彼をここに来るように誘ったのは「全てを見渡す創造主」の仲間だったようです。

「全てを見渡す創造主」は、「絶望の宇宙の創造主」がここに来たらこのような事が起こると知って彼を呼び寄せたようです。



おそらく、「全てを見渡す創造主」が光に返されると分かってこのような事を仕組んだのかもしれませんが。

### PART 3 宇宙の根源の愛による浄化

この絶望のエネルギーが、私達の宇宙を通り抜けたあとは、私達の宇宙に残ったエネルギーの浄化に入らなくてはなりません。

第10評議会の創造主にも手伝ってもらい、第10評議会の創造主から第9評議会、第8評議会、第7評議会と創造主達のエネルギーを流していったのですが、グルナレッド達から連絡が入りました。

「TAKESHIさん、この絶望のエネルギーの影響をうけて、創造主達から上位の創造主に対する不満のエネルギーが噴出しています。

このまま進めると、上位の創造主のエネルギーと下位の創造主の不満のエネルギーがぶつかり合う可能性があります。」

確かにそうです。

下位の評議会の創造主達は、上位の間に落ちた創造主達の行動により、さんざんな思いをしていますので、不満や怒りの感情が出てもおかしくはないかもしれません。

私は浄化の方法を変えなければと思いました。

「創造主の皆さん、絶望のエネルギーは流れ去りました。

しかし皆さんの意識は、上位の創造主に対する怒りや不満で満ち溢れているようです。

ただ、皆さんを虐げてきた創造主達は、皆さんが私達に協力してくれたおかげで、全て光に返っていきました。

残っている創造主達は、善良で心優しい創造主ばかりです。

彼らも皆さんと同じように、仲間を失い、苦しみを受けています。

今皆さんが一つにならなければ、私達の宇宙は粉々になってしまいます。

そのために私達は、1人1人がお互いを尊重し合う関係を築いていきたいと思えます。

そのために、この絶望のエネルギーのクリアリングは、私達1人1人が同じように「宇宙の源の愛」とつながって自分自身を癒していきましょう。

今回は、上の創造主に浄化をしてもらうのではなく、自分自身が宇宙の愛と深くつながって浄化を行うのです。」

多くの創造主が目を閉じて、自分の意識を「宇宙の根源の愛」とつなぎます。

元々創造主たちの光や生命力はすべて、この「宇宙の根源の愛」からやってきますので、この愛とつながる事が創造主にとっても大切なことです。

創造主達の光が、今迄よりもさらに大きく輝き始めます。

スターピープル達も目を閉じ、意識をひとつにして「宇宙の根源の愛」とつながります。

この宇宙に静かな時間が流れていきます。

創造主達の心の中から怒りのエネルギーが消えていきます。

安らかさと穏やかさが創造主達をつつみます。

1人1人が「宇宙の根源の愛」につながって、癒し切れていない仲間達をお互いサポートし合って癒しているようです。

## 第4章 異なる宇宙の創造主と怒りの目

### PART 1 地球のコアと黄金のドラゴン

私達は、2016年の年末をめぐり、人々の感情の浄化を行なったり闇のエネルギーによってコントロールされていた意識を元に戻したりしながら、人々が行くべき世界への分離を行なっています。

2017年からは地球も宇宙も、新しいエネルギーのもとに新しく生まれ変わる事が決定されているので、スターピープル達も少しでも多くの人に、光56%以上の世界に入ってもらえるように努力しているのです。しかし、その事に少しも気づかない地球人は相変わらず好き勝手なことを行っているようで、スターピープルの苦勞も報われないことが多いようです。

地球は先日の絶望のエネルギーの襲来や第1評議会の創造主達が取り換えられていた事件などがあってさらに混迷を深めていました。

現在は、第8評議会や第9評議会の創造主達もサポートにきていますが、彼らは直接地球の物理次元には入れませんので、やはり第1評議会と第2評議会の創造主とスターピープル達が中心になって行っています。

私達も時間があると、仲間達と共に、光51%以上の世界を見回っています。

昨夜も、この世界を調べているとダークエンジェル達が横行しているのを見つけました。

本来は、この世界には入る事ができないはずですが、偽の創造主達のおかげで、分離の壁が緩くなりその隙間を見つけて入り込んできているようです。

また光51%以上の世界にいる人達でも、欲に支配されてお金儲けのために、天使達のエネルギーを使っているうちにダークエンジェルとつながってしまった人達もいるようです。

また、絶望の宇宙の影響かもしれませんが、悪夢を見せる存在や今迄にいなかったネガティブな存在達も増えているように思いますので、それらの浄化も行っていかなければなりません。

しかし、私は光51%の世界を見て、通常よりもかなり暗い世界になっていることが気になります。

「エレナさん、この光51%以上の世界に輝きが足りないように思えるのですが、あなたはどう思いますか、」と尋ねました。

「そうですね、このところの混乱で地球自体の光やエネルギーが落ちているようにも思えます。

そして、この世界にはいるべき人がとても少ないのです。

先ほどもダークエンジェルのゲートを調べていた所、たくさんの人のスピリットが捕えられていました。

まだまだ地球の人々自身の輝きが足りないようです。」

私は、この地球の生命エネルギーを支えている地球のコアを調べることにしました。

地球のコアは現在5エレメントドラゴン達が守っているはずですが。

私達は、地球のコアについてなのですが、5エレメントドラゴン達が見つかりません。

大切な地球のコアをつつむ空間は、闇のエネルギーが漂う空虚な世界となっています。

地球のコアも元気がなく萎れた花のように輝きを失っています。

「5エレメントドラゴンは、どこに行ったのでしょうか、これでは地球に光が満ちてこないのも当然です。」  
エレナさんも仲間達にこの緊急事態を報告しています。

私はシェンロンに頼んで、仲間達を探してもらおうと、やはり「全てを見渡す創造主」が作った次元の中に、彼らは閉じ込められていました。

大切な地球のコアを守る5エレメントドラゴン達までも捕えてしまうとは、何とも残酷な創造主です。

私達は、5エレメントドラゴンを開放するとともに高次のドラゴン達にお願いしました。

「どうかこの5エレメントドラゴン達の力をさらに高めてください。

そして闇のエネルギーから彼らを守るために、黄金のドラゴンをここに招いてください。

5エレメントを力づける働きを持ち、ネガティブなエネルギーから地球を守るために、とてもパワフルなドラゴンを生みだしてください。」

私がそのように願うと、大空を稲光が切り裂くように大きな光が走りました。

そして、ゴウゴウという響きの中から、5エレメントドラゴン達よりも2回りほど大きな黄金のドラゴンが現われてきました。

その光は尊厳を持って輝き力に満ち溢れています。

これで地球のコアも元のように輝きだし、地球も明るさに満ちてくることでしょう。

## PART 2 人間の潜在意識に隠された怒りの目

私達は、さらに探索を続けます。

エレナさん達のスターピープルは、今人間の潜在意識から怒りや憎しみの感情を開放して、人間1人1人の意識に及ぼす影響を小さくしようとしているようですが、なかなか人間の潜在意識から怒りや憎しみの感情が抜けずに苦労しているようです。

私達は、その場所に行き、潜在意識のエネルギーを浄化する手助けを行う事にしました。

私は、第1評議会の「愛と浄化の創造主」達に手伝ってもらい、人間の潜在意識を浄化していきますが、思ったように浄化が進みません。

不思議に思い、潜在意識の中を調べると、やはりダークピープル達がいる、潜在意識に影響を及ぼす機械を作動させています。

この機械から、怒りや憎しみ、悲しみのエネルギーを放出して潜在意識の状態をどんどん悪化させているようです。

私達は、ダークピープル達を追い払い、この機械をとり除きます。

さらに私達は潜在意識の浄化を進めると、その意識の中に非常に不気味な「目」のような物を感じます。

そこからどす黒いエネルギーのような物が流れだし、人々の意識に影響を与えているようです。

これは何かとスターピープル達に尋ねても、皆さん見たこともないと言います。

私は創造主達を呼び寄せ調べてもらいますがわからないようです。

ただ一人、第9評議会の創造主が考え込んでいます。

第9評議会の創造主は他の創造主とも連絡を取り合って調べているようです。

しばらくして、創造主が口を開きました。

「これは、もし私達が考えている物だとすれば、ちょっと厄介です。  
この「怒りの目」は、はるかな昔に、第9評議会の創造主が作り出したもので、創造主や様々な種族の者達に怒りや憎しみの感情を起こす為に作られました。  
もちろん、創造主や人々の学びのために作られたのですが、この装置によって作り出された怒りの感情はとても強く、創造主同士の争いなども引き起こしたために、あまりにも危険であると判断され処分されたはずの物です。  
それがなぜここにあるのか、私には不思議なのです。」

彼が説明している間に、第9評議会の他の創造主もやってきました。  
「ここにいる創造主やスターピープルはすぐに退去してください。  
この装置は皆さんにも影響を与える可能性があります。」  
1人の創造主が、そう叫びました。

ロッド星人とグルナレッドだけを残し他の者はすぐに退去します。  
私は、創造主に尋ねます。  
「なぜそのような危険なものがここにあるのですか。」  
「いや、本当はこの装置が存在しているはずはないのです。  
私達は、永久にこの装置を使わないと決めたので、完全に消去したはずなのですが、ここにあるという事は誰かがこの装置を蘇らせたことになります。」  
「いったい誰がこのような事を。」  
「おそらく「全てを見渡す創造主」である可能性もあるのですが、何とも言えません。」

私はすぐに「流れを作る創造主」呼び出しました。  
「「流れを作る創造主」よ、この装置をこの場所に設置したときまで時間を戻して、誰がこの装置を設置したかを、私達に見せてもらえませんか。」  
「流れを作る創造主」は、私達を連れて、時間をさかのぼります。  
やがて、この装置が地球に運ばれてくる時の光景が見えてきました。  
やはり、「全てを見渡す創造主」が、この装置を運んでいるようですので、彼が何らかの方法でこの装置を作り出した事に間違いはないようです。

「ちょっと時間を止めてください。」1人の創造主が言いました。  
そこには、「全てを見渡す創造主」と一緒に仕事をしている、もう一人の存在の姿が映し出されています。  
創造主達は、それが誰なのかを調べているのですが、思い当たらないようです。  
もし、「全てを見渡す創造主」に協力者がいるとしたら、大変な報復が起こるかもしれません。  
私達には、その事も気になります。

創造主の1人が仲間達と相談しています。  
「この「怒りの目」を作り出したのが、「全てを見渡す創造主」であるとすれば、おそらくこの「怒りの目」を作った創造主と彼が何かしらの関係があったに違いありません。  
その創造主は、もう引退して光に返ってしまいましたから、その前に、「怒りの目」の設計図みたいなものを手にいれたのでしょう。  
しかし、もう一人の存在は、私達が全く知らない存在です。  
放っておくと何をしでかすかわかりませんので即急につかまえましょう。」と彼は言います。

創造主達は全ての創造主に、この存在を探し出すように指示を出しましたが、私達の宇宙の存在とは少し異なるエネルギーですので、探し出すのに時間がかかるかもしれません。  
その間に、グルナレッドやロッド星人は第8、第9評議会のスターピープル達と協力してこの機械がほかにもないか調べて破壊することにしたようです。

しばらくすると、第6評議会の創造主から連絡がはいりました。

「皆さん、不審な存在が、第6評議会の宇宙で目撃されましたのですぐに来てもらえますか。おそらくお探しの存在ではないかと思うのですが。」

私達も創造主達もすぐにその場所に向かいます。

やはり、私達と異なるエネルギーをした存在が逃げ隠れしているので創造主が捕まえます。

私は創造主にこの存在はなんなのかと問いますが、創造主達も知らないようですので本人を調べています。

「TAKESHIさん、彼は、私達の宇宙とは異なる宇宙から来た創造主のようです。」

「全てを見渡す創造主」に協力して、彼の仕事を手伝っているようです。」

私は、彼に尋ねました。

「もうすでに「全てを見渡す創造主」はいませんが、何故彼の仕事を手伝っているのですか。」

「「全てを見渡す創造主」と交換条件で約束をしたからです。」

「その交換条件とはなんですか、」と私は尋ねます。

彼はしばらく口を閉ざしていましたが、仕方なく話し始めました。

「「全てを見渡す創造主」は、私が存在する宇宙を私の支配のもとに統一する代わりに、自分の仕事を手伝ってくれるようお願いしてきたのです。」

「それで「全てを見渡す創造主」は、あなたを宇宙の支配者にしてくれたのですか。」

「そうです。私の宇宙の創造主は、すべて私の指示のもとに動くようになり、私が支配者となりました。そのお礼に、この機械を数か所に設置して作動させていたのです。」

私達は、悪夢を見ている様な気分がしました。

宇宙の創造主をコントロールして、一人の創造主に従わせることで独裁的な宇宙を創る事。

それは、「全てを見渡す創造主」が、私達の宇宙でも行おうとしていたことです。

幸い、私達の宇宙では阻止することができましたが、彼の宇宙では成功したようです。

「わかりました。」

「全てを見渡す創造主」はもうこの宇宙にはいませんので、あなたもこの宇宙にいる必要はないでしょう。すぐに装置を撤去して、自分の宇宙にお帰り下さい。

ここは、あなたの宇宙ではありませんので、あなたを処罰することはできませんが、第10評議会の創造主があなたの宇宙を調べることになると思います。」

彼は悔しそうに言います。

「わかりました。」

私の事がばれてしまったのなら、私はここにいる事はできませんので帰ることにします。」

私は、創造主達に彼の監視をお願いして、彼がきちんと機械を撤去して帰るか見届けてもらいました。



しばらくして私は、第10評議会の創造主に尋ねました。

「彼の宇宙はどのような状況ですか教えてください。」

「彼の宇宙では、やはり私達の宇宙でも起きたように、創造主達がすべて「全てを見渡す創造主」によってコントロールチップをつけられ、彼の指示通り動くように操作されていました。

まるでロボットのように味気なく独裁的な世界になっていました。

私達は、そのコントロールチップを全てはずし、創造主達を自由にするつもりです。

おそらく、彼が行なった事は、彼の宇宙の創造主から厳しく追及されることとなるでしょう。」

私達は、一步間違えば、「全てを見渡す創造主」から支配をうけていたかもしれません。

そして彼の宇宙のように、独裁的で冷淡な一人の創造主だけによって統治される宇宙になっていたかもしれないのです。

私達は、そうなる前に気づいたので、未だ幸せだったかもしれません。

私達のアセンションの起源は、残すところあと10日です。

それまで、この宇宙と地球を守りきらなければなりません。

### PART 3 他の宇宙から来たダークピープル

「独裁者の宇宙」から来た創造主は、解放された創造主達の尋問によって、彼が行なった事を明らかにされた後に光に返されたようですが、彼が地球で行っていた事はこれだけでは済まなかったようです。

23日の朝、私達は起きた時にとてもだるい感覚が体に残っていたので、ピカフラッシュに私達の体に関わっているエネルギーを調べてもらいました。

するとそのエネルギーは、再び人々の潜在意識の中につながっていきます。

スターピープル達は、今アセンションを前にして大量にため込まれた怒りや憎しみなどの感情のエネルギーの発散方法に苦慮しています。

このエネルギーを戦争や争いなどで発散させるとさらに憎しみや怒りの感情は増殖されますので、地震や火山噴火などの自然災害に見せかけて発散したいようですが、あまりにもそのエネルギーが大きすぎるのです。こしでも少なくしようと努力しています。

しかし前回のようにダークピープルや闇の創造主達によって人間の感情が増幅されれば、大きなエネルギーが発散され、地震や火山の噴火も大きなものとなり、被害も甚大なものとなってしまいます。

このところ日本や太平洋沿岸でもM7クラスの大地震が頻発していますが、それ以上の地震が起きる可能性も大きいのです。

私達は仲間ともに、人間の潜在意識のもとにやってきました。

そのエネルギーの中に入って行くと、その中をうごめく機械のような物が見えます。

すぐに回収して調べると、人間の潜在意識をコントロールしてネガティブな感情を作り出すための装置です。ダークピープルや闇の創造主にとって最後の切札は、人間のネガティブな感情を操作して大災害を起こすことですので、様々な仕掛けを行ってきます。

しかし、厄介なことに、この機械からは人間1人1人に感情のチップがつけられていることです。

まだつけられて新しいので、すぐに取りはずすことはできるようですが、この感情チップによって多くの人々が、本来大したこともない感情をより大きなものにしてしまう傾向が作られているようです。

ちょっとした事で人々を傷付けたり殺したりするような事も、このチップがあるとこれからも増えてくることでしょう。

このチップに関してはすぐにははずすことはできたようですが、この機械からも一つ恐ろしい場所が発見されました。

私達がそこに入った時、スターピープル達が、言葉を失っていました。

そこにあったのは、数知れないダークピープルの子供達とその卵だったのです。

そのダークピープルを調べていたロッド星人から緊急避難の指示が出ました。

「第1評議会や肉体を持ったスターピープルはすぐに退去してください。

このダークピープルは、子どもでも大変な力を持っていて、人々やスターピープルに乗り移る事が出来るようです。」

その声を聴いて、多くのスターピープルが退去し、代わりに第4評議会以上のスターピープル達が、ここに集まってきました。

第4評議会以上のスターピープルは、グルナレッドの指示でここを管理していたダークピープルと子供達、そして卵を回収していきます。

そしてこれと類似している施設を探すために各地に散っていきました。

私は恐る恐るロッド星人に尋ねます。

「ここにいるダークピープルは、10月に地球に来たスーパー・ダークピープルと同じくらいの力ですか？」

「いえ、それ以上です。

おそらく第3評議会のスターピープルに匹敵するほどの能力と知恵を持っているようです。

しかも、このダークピープルは、私達の宇宙のダークピープルではありませんから、もし、彼らが地球に解放たれていれば、たとえ第4評議会のスターピープルでも対処するのに時間がかかったでしょう。」

私達は、これだけのダークピープルが、地球に襲い掛かってきた時の事を想像すると気分が重くなります。

「どこから彼らは来たのですか。」と私は尋ねます。

「おそらく「全てを見渡す創造主」の手伝いをしていた創造主が連れてきたのではないかと思います。

彼の宇宙から来たのであれば、通常のスターピープルにも見えませんし、彼らの存在は知られていませんので、簡単に地球を征服することができます。

おそらく、地球に大災害が起きる前後に彼らを地球に降ろし、地球人に入り込ませて、地球を支配する予定だったのでしょう。」

「それは、光50%以下の世界で起きることですか。」

「いえ、彼らは光が少ない世界にはもう興味がありません。

光を持った人々がたくさんいる光51%以上の世界がターゲットです。」

「それでは、先日アルテミスが、光51%以上の世界は、第1アセンションを終えたシリウス人達が指導にはいると言っていましたが、このダークピープル達が地上に降りたらどうなりますか。」

「おそらくすぐに、ダークピープルに支配され、地球は滅茶苦茶なことになっていたでしょうね。

第1アセンションのスターピープルはおろか、第1評議会のスターピープルでは全く相手になりません。」

私は、彼らの施設を見つけられたことに感謝していますが、何とも憂鬱な気分です。

### PART 3 細菌兵器を開発していたへびつかい座のダークピープル

スターピープル達が、このダークピープルの処理をしている間に、美樹さんが自分の夢の話をし始めました。

「今朝見た夢だけど、大きな感染症がはやる夢を見たわ。

何か植物の胞子のような物が人の体につくと、人の体の中に入って行ってどんどん繁殖して、人々が血を吐いて死んでいく病気だった。

周りにはたくさん蛇たちもいたし。」

その話を聞いて、私もロッド星人も不安な感じがします。

「その様な病気は、ディセンションしたへびつかい座のダークピープル達を使用した細菌兵器にも似たようなものがあります。

彼らはこの細菌兵器によって2つか3つの星を滅亡させましたので、宇宙連合によってその最近兵器は壊滅されましたが、もしかしたらまた開発を進めているのかもしれない。」

私達はへびつかい座のスターピープル達にも来てもらいすぐにその病気の事をしらべることにしました。

美樹さんが見たエネルギーをピカフラッシュがたどっていくと、へびつかい座のスターピープル達の宇宙船に入っていきます。

宇宙船の中で細菌を培養する施設を作っているようです。

それをみて驚いたのはへびつかい座のスターピープル達です。

「これは何という事だ、へびつかい座のスターピープル達は、宇宙連合の一員として地球のアセンションのサポートに来ているのに、このような船が混じっていると、」

へびつかい座のスターピープル達は連絡を取り合って調べています。

私達も、その一隻に乗り込んでみると、そこにいたのはへびつかい座のスターピープル達ではなくへびつかい座のダークピープル達です。

彼らが、宇宙連合の目をごまかすために、へびつかい座のスターピープル達と同じ船を作り、彼等に紛れて地球に接近したようです。

へびつかい座のスターピープルのリーダーが私達に謝罪します。

「皆さん本当に申し訳ありません。

まさか、私達の宇宙船が利用されていたとは気づきませんでした。

私達の部隊は、各グループのリーダー達によって船団が構成されるものですから、私も気づいておりませんでした。」

「大丈夫です、私達がすぐに調べて処理しますので、あなたは仲間に連絡して、ダークピープルが乗った船だけを私達が処理しますから驚かないように連絡してください。」

グルナエル達が残りの船を調べ、ダークピープル達が乗った船を発見すると、各リーダー達を残して宇宙船ごと光に返しているようです。

各宇宙船のリーダーは宇宙連合により尋問され、最近兵器の入手経路や開発方法など様々な事が調べられるようです。

でも、この細菌兵器が、実際地球で使われる前に彼らを見つけることができてよかったです。これも美樹さんと関係が深い探査役の創造主が見つけて彼女にメッセージを送ってきたのでしょう。

取り調べが進むといくつかの事が分かってきたようですので、グルナエルが報告に来ました。

「TAKESHI さん、彼らの細菌兵器も「全てを見渡す創造主」によって計画されていたようです。地球の大災害に合わせてこの細菌をばらまき、多くの人達を病死させる計画だったようです。この細菌は大変な繁殖力を持っており、大気の流れによって瞬く間に世界中に広がっていったことでしょう。しかも致死率が高く、この病気に対する知識も抗体もない地球では、多くの人々が死滅するのは時間の問題だったかもしれません。」

「そうですね、それは大変な事になるどころでした。大災害にダークピープルの襲来、そして地球人が抵抗力を持たない感染症の流行、まさにパニックですね。その様なことがこの地球で起きる予定だったのですね。

でも大災害を除き、ダークピープルの襲来も感染症の流行も防げてよかったです。」

「いえ、感染症の細菌はもうすでに地球に入っています。」

そのグルナエルの言葉に、私達は耳を疑いました。

「TAKESHI さん、この細菌はもうすでに地球に運び込まれ、地球の施設で研究が進んでいるようです。この研究が終われば、地震などの災害時に、細菌が放出されることは間違いありません。」

「それでその施設はどこにあるのですか。」

「アメリカと日本です。」

また、冗談きついな！と私は思いました。

「特に日本は地震が多発していますので、一番狙われやすい場所ですから、当然でしょう。」  
どうも冗談ではないようです、私も真顔になります。

「それでグルナレッド、対策はありますか。」

「おそらく細菌を研究している施設で働いている人々をどこかでコントロールしているダークピープルがいるはずですから、彼らを捕まえることが先でしょう。研究者の洗脳や意識操作がなくなると、この研究は行われなくなると思いますので、隙を見てスターピープルの仲間がその細菌を回収しに行けばよいと思います。後は時間の問題です。」

何かサスペンス映画みたいな展開ですが、現実問題ですので早く解決しなければなりません。グルナエルたちが、研究者を操作しているへびつかい座のダークピープル達の特定を急いでいます。しばらくして、グルナエルから連絡がありました。

「TAKESHI さん、見つかりました。」

今度は、プレアディスの宇宙船に偽装して、地球に入り込み研究所の近くの山に隠れていました。もうすでに、第1評議会とロッド星人達が向かっていますので、間もなく捕まると思います。」

プレアディスのスターピープル達は、光の地球に移住した人達のために、今の地球から食料や資材を運ぶ仕事をしているので、プレアディスの宇宙船は、地球の中を移動していても怪しまれませんから、へびつかい座のダークピープル達は、彼らの宇宙船に偽装して地球の中で仕事をしているようです。  
本当に悪賢い連中です。

ロッド星人からも連絡が入りました。

「TAKESHI さん、へびつかい座のダークピープル達の宇宙船を見つけました。  
今、リーダーも捕えていますので、間もなく彼らのコントロール装置も停止させることができますと思います。」  
ロッド星人達を中心とした第1評議会の実行部隊が、へびつかい座の宇宙船の中に入り、反撃するダークピープル達の攻撃を避けながら、愛の光を輝かせて彼らを捕えているようです。  
同時に3か所ほどの場所で、宇宙船を見つけ、それぞれのリーダーを捕まえているようです。

「TAKESHI さん、ダークピープル達をすべて捕えました。  
彼らは、リーダーを残し、光に返すか、宇宙警備隊に引き渡されると思います。  
リーダーは、宇宙連合により取り調べを受け、この細菌の入手ルートなどを調査する予定です。  
研究者をコントロールしていた装置も止めましたので、彼らはこの細菌の事をきっと忘れてしまうでしょう。  
後は、私達で、研究者がいなくなってから研究所に入り、細菌を回収したいと思います。」

アシュタールのエレナさんや第1評議会のスターピープル達も胸を撫でおろしています。  
光51%以上の世界は、長い時間はかかるかもしれませんが、これから人々を進化させて、アセンションした地球に導いていかなければならない世界です。  
その世界に、大災害が起きるだけでなく、致死率が高い細菌がばらまかれたりしたら、もう地球は、国家や経済が一気に破たんして、地獄のようになってしまいます。  
更に、そこに、強力なパワーを持った、スーパー・ダークピープル達が入り込んで来たら、地球はあっという間に支配されてしまい、地球人は、彼らの奴隷となってしまいます。

私達は、後数日したら、この光51%から55%の世界にも関われなくなります。  
その前に、この問題が明るみに出て解決できたことは幸いです。



## 第5章 忘却の創造主

### PART 1 創造主に学びを与える「忘却」

私達は、この地球と宇宙に関わる様々な問題を解結してきましたが、今年ものこり1週間となってきました。スターピープル達が言う最終期限までは後1週間ですが、私の心に何かやり残したことがあるような胸騒ぎが起きます。

この頃の私は、第8評議会の創造主と意識を合わせて、宇宙と地球にある様々な問題を調べ、仲間と共に解決する事を行っています。

意識を合わせると言っても、私自身は睡眠をとって、私の現実的な肉体の意識を、第8評議会の探査役の創造主が使って問題を探し出すのです。

私達は、その結果を夢や様々なイメージと知ることができるので、私達が目覚めてからその解決に入ります。

この日も、夕食を食べるとすぐに眠くなりましたので睡眠をとる事にしました。

その時に見た夢は、1人の職人の人生だったのですが、そのテーマは「忘却」です。

この「忘却」が何を意味するか、私にはよく分かりませんでした。今迄の事を考えると、第4評議会の創造主達が、仲間の創造主の事を忘れていたり、真実と正義を貫く創造主がその事を忘れて闇の創造主になってしまった事も「忘却」のせいではないかと思ったのです。

私の探査役である「全ての働きを持つ創造主」にこのことを訪ねてみました。

「TAKESHIさん、実は私達、上位の創造主も何かを忘れてる気がしているのです。

ここまでアセンションを行ってきたのですが、何か未だ行っていない事があるような気がして私は探していたのですが、あるところで1人隔離されている創造主を見つけだしたのです。

その創造主は第9評議会の創造主で、生命達の記憶をリセットするための創造主です。

つまり皆さんが肉体を持って生きていた時の記憶は、次の人生に入るときはすべて失われリセットされます。また創造主も、自分の行った事をリセットして、宇宙の再創造を行う事もありますが、その様な時に手助けをする創造主ですが、どうも様子がおかしいようです。」

私もその言葉を聴いてなるほど、と思いました。

「確かに、そのリセットを行う創造主の働きに問題が起きているかもしれませんね、すぐに調べましょう。」

私達は仲間と共に、その創造主のもとに行き、第8評議会から第10評議会の創造主にも来てもらいました。

「リセットの創造主」は、他の創造主と接することもなく1人で活動しているようです。

私は第9評議会の創造主にこの創造主の事を尋ねました。

「私達も、この創造主の事は良くわからないのです。

宇宙の創造を行うわけではないのですが、いつも単独で動き、私達にも報告が行なわれることもありません。」

私は、この「リセットの創造主」がなぜこのような立場にいるのか、第10評議会の創造主に尋ねました。

第10評議会の1人の創造主が私の問いに答えてくれました。

「私がこの創造主をその様な立場に置いたのです。」

この創造主は、下位の創造主の学びのために、その創造主が大切なことを忘れてしまい、問題が発生するように、彼の判断で仕事が行なえるようにしました。

そして、その仕事に他の創造主が介入しないように、彼を評議会の創造主から孤立させ単独で仕事ができるようにしたのです。」

私達は、彼の立場が理解できたのですが、彼自身が自分の仕事をどのように考えているか聞いてみることにしました。

私は「リセットの創造主」に挨拶をしていくつかの質問を行います。

「偉大なる創造主よ、初めてお目にかかります。

いくつかの質問をさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。」

「もちろんそれはかまいませんが、たくさんの創造主がお集まりになられて一体どうしたのですか。」

「実は、地球と宇宙のアセンションが最終段階に入ったところで、様々な問題が起きてしまい、その解決を皆さんで行っていただいている最中なのです。」

「そうでしたか、地球のアセンションが、うまく成功されることを望んでいます。」

「リセットの創造主」はにこやかに答えてくれます。

「創造主よ、ありがとうございます。

ところで、あなたの役目や仕事内容について教えていただけますか。」

「私は、宇宙に生きる人々やスターピープル達が生まれ変わるときなどに、その生命が大きな学びを得ることができるように、過去の人生の記憶を消す力を、物理世界の創造主達に与えています。

それぞれの星を担当する創造主がその様な場所を生みだし、そこで記憶を新たにするための事を行っているはずです。」

「それは、地球で「黄泉の世界」と言われている世界の事ですか。」

「私には、それぞれの世界がどのような名前と呼ばれているのか、分かりませんが、その場所が死者の記憶をリセットして生まれ変わらせるための場所であるならば、そうだと思います。」

もちろん第9評議会の創造主ですから、私達の星での呼び名を知らないのは当然です。

「それから、創造主達に対しては何か役目を持っていますか」と私は尋ねました。

「これは、第10評議会の創造主様から、指示を受けたことでもあるのですが、創造主が学びを行う為に、創造主にとって必要とされるものを、時折忘却させてください、と言われておりましたのでその事も行いました。」

「そうですか、第8評議会の創造主の1人である「全てを見渡す創造主」に対しても、その力を使用しましたか。」

「はい、彼の正義心を忘却させました。」

全ての創造主から、驚きの声やため息が聞こえました。

「そうですか、「全てを見渡す創造主」はその為に、「怒れる創造主」を生みだしこの宇宙を支配しようとしてましたし、それができないと分かると、「絶望の宇宙」を私達の宇宙に関わらせ、絶望のエネルギーを私達の宇宙に流してきました。

彼の行いにより、私達の宇宙が混乱し、大きな問題を抱えることになりましたが、あなたはその事を御存知ですか。」

「私は、すべてを知る立場にはありませんので、この宇宙で何が起きているかは詳しくは分かりません。」

「そうですね、それでは美樹さんと私の記憶をご覧になって、この宇宙で何が起きているか見てもらえますか。」

「リセットの創造主」は、私達の記憶を見えています。

「見させていただきました。

確かに、私は物理世界の事は全く分かりませんので、このようなことが起きたという事を初めて知りました。しかし、結果的には、皆さんがすべてを解決し、創造主もスターピープル達も成長されたようですので良かったと思います。」

「結果的にはそうですが、第4評議会の罪もない数名の創造主が光に帰り、多くの創造主達が理性を失って他の創造主やスターピープル達を傷付ける創造主になってしまいました。

そして彼らの多くが光に返されました。

これは、創造主の学びというレベルを超えているのではないかと思います。」

「あなたから見ればそうかもしれませんが、私は、自分に課せられた試練に打ち勝つ事こそが学びだと思っておりますので、それも仕方がないことだと思えます。」

この「リセットの創造主」は、創造主やスターピープルの生命に関してもあまり関心はないようです。

「ただし、この宇宙は一步間違えば、その創造主によって支配されたかもしれません。

また「絶望の宇宙」によって、多くの創造主達が理性を失い壊滅していたかもしれません。

それもまた学びだというのですか。」

「でも、そうはなりませんでしたので、結果的にはよい学びだったと思えます。」

どうも、私との話は平行線です。

その時第10評議会の創造主が、話しかけてきます。

「TAKESHIさん、そして皆さん、大変申しわけありません。

私が、創造主達に適切な学びを行わせるために「リセットの創造主」にこのような役目を持たせてしまいました。

そして、他の創造主にもその学びを起こした原因がすぐにわからないように、彼を孤立させたために、彼がこのような考え方をするようになってしまったようです。

おそらく彼も第9評議会の創造主の1人ですので、彼を通じて、「全てを見渡す創造主」だけでなく、彼が作り出した創造主である「怒れる創造主」や彼のエネルギーに関わる創造主達などにも、「忘却」のエネルギーが流れ込み、多くの創造主が自分にとって大切なものを忘却していったのではないかと思います。

私が、「リセットの創造主」に対して行った指示は大きな過ちだったと思えます。」

今度は「リセットの創造主」が、その言葉を聴いて動揺しています。

## PART 2 「リセットの創造主」に流れ込んでいた「混乱の宇宙」のエネルギー

「私が行なった事に何か問題があったのですか。」と「リセットの創造主」は尋ねてきます。

「いえ、あなたは自分に与えられた指示を忠実に守っただけでしょう。

ただ、その事によってどれだけ大きな影響が出たかという事を知らなかっただけです。」

私は、この「リセットの創造主」が、誰かほかの創造主から影響をうけていないか、第10評議会の創造主に調べてもらう事にしました。

その間、私はもう一つの質問を「リセットの創造主」にします。

「創造主よ、あなたはほかに第8評議会や第9評議会の創造主にたいして「忘却」の力を使用したことはありますか。」

「もう一人だけいます。」

第8評議会の創造主のひとりから未来を見通す力と判断力を忘却させました。」

第8評議会の創造主達は、それが誰か急いで調べているようです。

そして探査役の創造主が答えてくれました。

「その創造主は、もうすでに光に帰った創造主のようです  
おそらく「絶望の宇宙」を生みだした創造主かと思います。」

「先日、私達のもとに来た「絶望の宇宙」を現在統治している創造主を生みだした親の創造主ですね。」

「そうです、彼が光に帰るといった理由が私達にはわからなかったのですが、「リセットの創造主」が、彼の能力を忘却させたことで、きっと創造主として任務を果たしていく自信がなくなって光に帰ったのかもしれない。」

その時、第10評議会の創造主から連絡がありました。

「「リセットの創造主」から一つのラインがつながっていたので、調べたところ、TAKESHIさん達の宇宙とは異なる宇宙とつながっていました。」

「それはどのような宇宙ですか。」

「皆さんの宇宙とは、全く異なる宇宙ですが、この宇宙も「絶望の宇宙」を作った創造主が作り上げています。  
おそらく、彼が光に返ってしまった事で、「絶望の宇宙」と同じように、彼の部下に任されているようです。」

「この宇宙は第10評議会の創造主は管理していなかったのですか。」と私は尋ねます。

第10評議会の創造主の1人が、現れました。

「この宇宙は、私が時折見回りをしておりました。」

非常に混乱していた宇宙ですので、他の宇宙と関係を持たないように、と指示をしてあります。

その宇宙とこの「リセットの創造主」がつながっていたという事はとても不思議なことです。

もしかしたら、「リセットの創造主」が、その能力を忘却させ、光に帰った創造主を通じてつながったのではないかと思います。」

第10評議会の創造主も、何故このようなことが起きたのか、わからないようです。

「それでは、申し訳ありませんが、つながっている宇宙の創造主を呼んでもらえませんか。」

この宇宙の管理を行う創造主がずっと消えていきました。

私はその間に、前回の「絶望の宇宙」と同じことが起きないように第10評議会の創造主達にエネルギーのシールドを張るようにお願いしました。

やがて、異なる宇宙の創造主が怪訝そうな顔でやってきました。

「突然お呼びして申し訳ありません。」

「一体、どうしたのですか、私には何が起きているのか理解できないのですが、」と彼はぶっきらぼうに答えました。

「少し調べたい事がありまして来ていただきました。」

あなたはこちらの創造主の事を御存知ですか。」と私は、「リセットの創造主」を指さしました。

「いえ、知りません。」と彼は答えます。

「実は、こちらの「リセットの創造主」から、皆さんの宇宙へとラインがつながっていて、エネルギーが交流していたのですが、その事に覚えはありませんか。」

異なる宇宙の創造主は、少し考えているようです。

「私には覚えがありませんが、私を生みだした創造主が、こちらの創造主と関わりがあったかもしれません。」

「わかりました、あなたは、他の宇宙と関わり合いたいと考えたことはありますか。」

「いえ、自分の宇宙の事しか興味がありません。」

第10評議会の創造主に聴いても、彼は嘘は言っていないようです。

「それでは、「リセットの創造主」は、この異なる宇宙の創造主の事は覚えていますか。」

「私は、見覚えがあるかもしれませんが、直接関わったことはないと思います。」

「わかりました。」

おそらくこのラインは、あなたが引退した第8評議会の創造主に忘却の力を使ったときに、彼を通して、彼が作った宇宙とつながったのか、もしくは引退した創造主がわざとつなげたのかどちらかでしょう。

第10評議会の創造主よ、どう思いますか。」

異なる宇宙を管理する創造主も同じように考えているようです。

「私もそのように思います。」

このラインを通して、異なる宇宙にも「忘却」のエネルギーが流れ込み、私達の宇宙にも、わずかですが彼らの宇宙のエネルギーが流れ込んでいるようですので、至急そのラインを取りはずしましょう。」

異なる宇宙から来た創造主もようやく事情が分かったようです。

「そういう事だったのですね、そうしていただくと助かります。」

私達の宇宙の創造主も、すぐに自分がしたことを忘れてしまい、いつも混乱ばかりが起きているのです。

これで、私達の宇宙も少しは良くなるかもしれません。」

彼はそう言って帰っていきました。

私達の宇宙にも、少しだけですが、彼らの宇宙のエネルギーが流れ込んでいたようです。

特に「リセットの創造主」のエネルギーが強く流れる「黄泉の世界」に、異なる宇宙の混乱のエネルギーが流れ込んでいました。

「黄泉の世界」がダークピープルや闇の創造主に利用されていつもおかしくなっていた原因は、この「混乱のエネルギー」が、「黄泉の世界」に満ちていたためだったかもしれません。

「リセットの創造主」と異なる宇宙をつなぐラインが切り離されることで、「黄泉の世界」に混乱のエネルギーが流れ込んでくることもなくなり、「黄泉の世界」もまともなものになる事でしょう。

私は、第9評議会と第10評議会の創造主をお願いして、「リセットの創造主」を第9評議会の創造主達の仲間に向かえ入れ、これから創造主に忘却の力を使う時は、第9評議会と第10評議会の創造主達と協議を行ってからにしてもらう事にしました。

せつかく創造主の世界を立て直しアセンションを迎えるのに、また「全てを見渡す創造主」のような闇の創造主が生まれてきては、今迄と同じ事になってしまいますので、これからは、彼のカも慎重に扱わなければなりません。

「リセットの創造主」も、本当は孤独であることに辛さを感じていたようです。



第9評議会に迎えいられると嬉しそうなエネルギーを発していました。  
これで創造主に関わる大きな問題は解決したようです。  
私達も少し胸をなでおろしました。

私の横でロッド星人がつぶやきます。

「本当に深い話ですね。

私たちでは思いもよらない事の連続ですから、私も大きな学びを得られました。

「リセットの創造主」にも感謝したいと思います。」

## 第6章 光の地球の様子

### PART 1 地球の区分について

暗い話が続きましたが、ここで「光の地球」の事も少し書いておきたいと思います。

今回のアセンションは、地球の事に限って言うならば、闇の多い地球に閉じ込められた人々やスターピープル達を救い出し、地球種族としてアセンションさせていく事が目的でした。

そして地球人が、自分達が存在している宇宙には、多くの叡智ある種族（スターピープル）と宇宙を運営する創造主がいることを知り、彼らの仲間入りするための準備を行う事が求められていたのです。

他の星々のアセンションは、その星に住む種族が単一である場合が多く、意識の進化度合いも一つの種族の中では同じようなものです。

そのために、その種族ごと意識進化させてアセンションすることはさほど難しいことではありません。

しかし、地球では、ひとつの星の中に、異なる種族がたくさんいて、それぞれの価値観も意識の成長度合いも異なっています。

また、私達は物理世界に生きているために、同じ種族の中でもそれぞれの人々が異なる生活環境や人生経験、価値観、経済力などを持っているために、愛や叡智の進化具合も全く異なっています。

そして、最も厄介だったのは、地球には、地球人の意識進化を妨げるダークピープルや地球人を支配することを喜びとして、地球人のスピリットを捕える闇の創造主達がたくさんいた事です。

私が書いているアセンションブックはそのようなダークピープルや闇の創造主との戦いの記録であり、地球の人々を彼らの罠から救い出し、アセンションさせるために活動しているスターピープル達の物語です。

この記録を読んでもらえばお分かりになると思いますが、地球人の中には、純粋に愛と平和を求めて生きている人もいれば、好んでダークピープルと共に活動を行っている地球人やダークピープルにだまされて自分の人生を台無しにしてしまう人もいます。

もちろん、自分達が共に活動したり自分を導いてくれる存在が、地球外生命体のダークピープルであるとは知らずに、自分の利益や欲望を満たす為に、彼らと共に働いている人達もたくさんいます。

そして、ダークピープルに利用されるうちに、自分の意識状態もダークピープルと近いものになり、人々を支配したり、経済的な利益を求めると喜びを感じ、地球人としてアセンションする事ができなくなった人々も増え続けているのです。

創造主の計画によって始まった地球のアセンションは、大きな障害と問題が続出し難航しました。

私達は、1人でも多くの地球人を高い意識に導きアセンションさせて、スターピープルの仲間入りをさせようとしてきましたが、地球人を支配して自分の物にしようとするダークピープルや闇の創造主に、何度も行く手を阻まれました。

そして、地球と地球人を支配している存在達の様子を見極め、地球のアセンションの方針が決められました。

それは、地球人を支配していたダークピープル達の世界はそのまま残したうえで、光を持った人が行くべき「光の地球」と「光の地球」に向かうための準備的な世界である光51%以上の世界が作られる事となったのです。

その為に、地球は光の度合いによって細かく区分され、どの世界にどのような人々がはいるか、細かく決められたのです。

「光の地球」の事を詳しくご紹介する前に、この区分について再度ご紹介します。

### ★光50%以下の世界・・今までと同じ地球で暮らす人

50%以下の世界は、今迄の地球と同じように光よりも闇が多い地球ですので、経済的な利益の追求、戦争や殺人、植民地支配、人々に対する精神的支配、女性や子供に対する性的支配などが日常的に行われ、国家もそのことに対して解決をおこなわない世界です。

このような世界で、自ら生きる事を求める人達は、光50%以下の世界にとどまり、今迄と同じような地球の中で暮らしていきますので、何の変化もありません。

### ★光51%～55%の世界・・今よりも平和な世界で暮らしたいと望む人

もっと平和な世界で暮らしたいと望む人やもともとスターピープルのスピリットを持つ人達は、この世界から救出していかなければならないので、今迄の地球とは異なる世界が作られました。

そして、その世界は大きく3つに分けられました。

そのひとつは、光51%から光55%の世界で、今と同じ地球の別次元に作られています。

この世界に行く人は、今までの地球よりも光が多い地球に生きる人たちです。

ここ2カ月くらいの中に、地球の人々を支配してきたダークピープルや闇の創造主はほとんど片付きましたので、皆さんからもネガティブなエネルギーが払拭され、感情や意識も落ち着いたものになってきました。

しかしまだ愛の度数が低いのでこの世界で何度か生まれ変わりながら学んでいく事になります。

この世界では、愛に基づいた学びが行なわれます。

今迄のように、戦争や大災害によって、自分の心を傷付けながら学んでいくのではなく、良心的なスターピープル達に間接的に指導を受けながら皆さんは成長していきます。

### ★光56%～59%の世界・・意識の成長度が高くこれからアセンションを迎える人

次の世界は光56%から光59%の世界です。

この世界からは、今迄の地球からアセンションした世界として、スターピープル達が皆さんと同じ物理世界に生きて、皆さんを直接指導する世界になります。

おそらく2017年から、スターピープル達と直接地球の物理次元で出会うファーストコンタクトが行なわれ、皆さんは肉体を持ったままで意識進化を行う事になります。

この世界は、宇宙のしくみやスターピープル、創造主の事などを物理世界で学び、スターピープルの考え方や技術などを、地球人が身につけていくための世界です。

しかし、一つ一つの光の世界は、2016年末で完全に分離されるようですので、ひとつの人生で意識が成長しても、その上の世界に入っていくためには、一度肉体を失ってから次に世界にはいる事になります。

特に光59%の世界は、地球人がスターピープルになるために必要な科学技術や宇宙工学の技術などを持っている人達がたくさん入ってくるようになっていきますので、彼等が新しい地球を作るのに必要な技術、たとえば

環境を汚さないフリーエネルギーや宇宙を航行できる宇宙船、安全で多機能なコンピューター、病気にならないような遺伝子操作などを行う技術を開発して行くことと思われます。

## ★光60%以上の世界・・愛の度数が高く「光の地球」に入った人

次のPARTから私が話をする人々のことです。

肉体をもったままアセンションした人々ですが、自分達がアセンションしたとは気づいていないようです。現在の地球とは、全く異なる空間に作られており、現在の地球のエネルギーの影響が及ぼされないように守られています。

主にスターピープルとシャンバラの種族達によって運営されている世界です。

## PART 2 光の地球に入ってきている人々

それでは本題に入りましょう。

私のレポートを読まれている方は覚えていらっしゃると思いますが、2016年の10月に新たな能力を持つスーパー・ダークピープルという存在が地球に入り、地球人を新たに支配することを始めました。

地球の物理世界は、もともとディセンションしたオリオン人やグレシャッド星人とその部下であるレプテリアン達によって支配されていたのですが、宇宙連合が直接地球に入ってきてから、自分達では、太刀打ちできないと考えたオリオン人達は、さらに強力なスーパー・ダークピープルを地球に呼び寄せたのです。

スーパー・ダークピープル達によって、光を持っている人や純粋な心を持っている人、もともとスターピープルのスピリットや資質を持っている人達は非常に危険な状態にさらされることになりました。

その為に、地球の中に、アセンションした別の地球である「光の地球」を作るのではなく、急きょ地球とは異なる世界に「光の地球」を作り、そこに人々を移送することにしました。

特に、ダークピープル達と一体化した政治家や権力者達などによって虐待や支配をうけている人々、体も弱ってきている人、純粋な意識を持っている子供たちが優先して、この世界に運ばれました。

もう少し具体的に言うと、次のような人達が「光の地球」の住人として選ばれてきたのです。

○地球の生活の中で、人々に奉仕する事を喜んで実行してきた人々、彼らは昔からの技術を受け継いで良い物を作りたいと考えている人達で主に老齢の技術者とその技術を学んでいる人々、そして心優しい生き方をしてきた人。

農薬などを使わずに農業を行ってきた人々、木材などを材料として家や道具などを作ってきた人々、自然な素材などを使用して料理や加工食品を作ってきた人、自然な素材で服などを作ってきた人達で、彼らの多くは、大工仕事や農業などの指導者として、多くの人々にその技術を伝え、家づくりや農業を行う中心人物として活躍しています。

歳をとっている人は、今迄の地球では、老齢や病気で亡くなった事になっているようです。

○中東やアフリカなどの戦闘がおこなわれている国の人々や難民の人々は、生活も奪われ大きな抑圧を受けて生きてきました、その様な人々と、差別や人々の生命を脅かすために一生懸命に戦ってきた人々

自分の国を追われたり、生きる為に逃げ出してきた人々、差別や不誠実な政府と闘ってきた人々の中で純粋な愛を保っている人々の多くがスターピープルから救出され、「光の地球」にやってきました。

30代から50代の人達も多く、「光の地球」の現実的な仕事を行っています。

彼らは今までの地球では、避難途中で行方不明になったり、戦闘や難民キャンプの争いに巻き込まれて亡くなったようになってきているようです。

○光を持った子供達は、この地球では抑圧されたりいじめられることが多く、そのままではしっかりと育つことができません。

特にアジア、中近東、南米などでは、子供たちが誘拐され労働力や性的な奴隷として強制的に働かされることが多く、過酷な人生を生きていかなければなりませんので、多くの子供たちがスターピープル達に救いだされています。

彼らは、行方不明になっても公にはなりませんので、彼らを支配していた人々を精神操作して救出されてきたようです。

また先進諸国でも、地球をサポートに来たスターピープル達が地球人として生まれてきている場合も多くありますので、彼らも「光の地球」に移されています。

彼らは主に家族や地域の行政などに対する操作が行われ、彼らの記録が消されて初めからいない事になっているようです。

親がない子供たちは、「光の地球」の地下にあるシャンバラに連れてこられ、シャンバラの人達から教育を受け、スターピープルの卵として育てられているようです。

○愛の度数が高い人達、そして先住民族の伝統を重んじて生きている人達や彼らの生き方を学んでいる人達も「光の地球」の住人として選ばれています。

彼らは非常に優しく思いやりがある人達です。

そして、この地球のアセンションのために、古来からの伝統や知恵を学び保持してきた人達です。

本来ならば、先住民族の人達が、伝統的な儀式や教えを通して成長し意識進化していくはずでした。

しかし、先住民族に対する多くの侵略や略奪、先住民族の伝統や文化を破壊しようとする人々の抑圧によって、彼らは本来持っていた力を失い、地球のアセンションをリードする事ができなくなってしまいました。

彼らもスターピープルによって救い出され、「光の地球」で伝統的な生き方をすることができるようになりました。

ここに4つのタイプの人々について紹介しました。

皆さん、深い愛と他人に対する思いやりを持って生きてきた人達ばかりですが、ひとつ残念なことは、宇宙の事に関する知識が未だ十分ではないようです。

「光の地球」にはもうすでに、たくさんのスターピープル達が、彼らのお世話をしているのですが、スターピープル達は、自分達が地球人以外の種族であることがばれないように地球人の姿をして、彼らと接しています。

地球人がスターピープルとして成長する為には、スターピープルの存在や創造主達の役割などについて学ばなければならないのですが、地球の古くからの宗教を固く信じている人が多いので、スターピープル達もその姿を見せることができずに困っているのです。



普通の人達でも、突然スターピープルが現われてきたら皆さん驚くでしょうが、現在「光の地球」に集まってきている人達は、お年寄やまだ十分な教育を受けていない人達も多いので、少しずつ学ばせていかなければならないようです。

しかしスターピープルとしてのスピリットや資質を持っている子供たちは、偉大なるスターピープルであるシャンバラの人々が特別な教育を行っているようですので、やがて子供たちが大きくなると、「光の地球」の人々の意識も大きく変わる事でしょう。

そして、今から私達が関わる光59%の世界の人々は、すでに情報としてエイリアンや地球外生命体達がいるという事を知っている人達です。

彼らが、スターピープルと出会い、彼らと共に活動する事になれば、スターピープル達の考え方や精神的な進化をもたらすための方法、そしてより優れた技術などを学び開発していく事が出来るようになります。

その様な人々が、やがて「光の地球」にたくさん入って行く事になりますので、その時から、状況は大きく変わると思います。

今の「光の地球」は、科学的には電気がない時代の地球と同じようなレベルですので、到底他の星々に宇宙船で出かけ交流するというレベルではありません。

これから優秀な科学者や技術者が、「光の地球」にどんどん生まれ変わり、新たな発展を遂げていく事でしょう。

### PART 3 光の地球の始まり

それでは、新たに作り出された「光の地球」がどのような状況であるか、お話ししましょう。

今ここで、私が書いたことを読んでいる人は、現在「光の地球」にいる人ではないので、私の話が信じられないと思いますが、何度か生まれ変わるうちに「光の地球」に入ってくる可能性もありますので、皆さんのスピリットの学びのために書きたいと思います。

先ず2016年の10月に多くの人々が「光の地球」に集められましたが、この時は地球に大災害が起きたので、ここに避難のために集められたという設定で、人々は「光の地球」に連れてこられました。

その為に、ここに集められた人々の意識には、大災害や避難している情報がインプットされたようです。たとえて言えば大きな「ノアの方舟」のような話です。

皆さんが、大災害にあった時に、国連のような組織の人達に助けられたという事になっているようです。

中には両親を失い子供だけが連れてこられた場合もたくさんありますので、その様な子供たちはシャンバラの人々やスターピープルが親代わりになってお世話をしているようです。

「光の地球」に連れてこられた人々はいくつかの場所に分けられましたが、同じ国や地域の人達を集めるのではなく全く異なる国や地域の人達が混合チームを作り、同じ場所で共同生活を営むようになりました。

本来はこの様な事は起こりませんが、スターピープル達は、まず地球人が種族や国家の壁を乗り越えて仲良くなるという事に重点を置いたようです。

スターピープルとして宇宙連合に加入する最低条件は、ひとつの星が一つの統一国家である事が大切です。つまり、同じ星にいくつかの種族がいたとしても、全ての種族の人達が仲良く暮らすことができなければ、当然他の星の人々とも仲良くできるはずがないので、先ず地球の人々に国や種族に対する偏見を取り除いてもらう目的でいくつも国々の人達で一緒に暮らす避難所を作ったようです。

彼らが連れてこられた避難所はあらかじめスターピープル達が準備をしておいたようです。

まるで学校の体育館や食堂が一つになったような場所です。

ただし、人々が生活する場所は家族や個人単位で部屋ごとに分かれており、人々のプライバシーと安全は守られていたようです。

そして食事に関しては、連れてこられたばかりで、食事の材料もなく食事を作る事も出来ないので、地球の安全な場所から運ばれてきたという事にして、配給された料理を食堂で食べていたようです。

そして生活に必要な物は、全てスターピープル達から配給され、連れてこられた人たちが落ち着くのを待っていたようです。

人々の中には、もう少ししたら、自分が住んでいた場所に戻れると考えていた人たちも多くいたようですが、難民キャンプにいた人々や誘拐され労働を強制されていた人々、前の世界で虐待やいじめにあってきた人々は、この場所が天国のように思っていたようで、この場所で暮らすことを考えはじめ、地球人の姿をしたスターピープル達と共に生活基盤を作るために働き始める人達も出てきました。

次に起こってくる問題は言語です。

スターピープル達は、いくつもの星の人々が自由に会話ができるように翻訳機を持っていますので、これを地球人仕様に作り変えて、支給品として配ったようです。

この翻訳機によって異なる国の人々や種族とコミュニケーションが取れるようになり、お互いの事がうまく理解できるようになったようです。

彼らは時間が過ぎるとともに、お互いの理解を深め、家族のようなきずなが生まれてきたと言っています。

ただ、スターピープルやシャンバラの人達は、ここに来た人たちは地球に帰るのではなく、新しい「光の地球」を作るための最初の種族となる事が分かっていたのですが、その事は言えずにいました。

そして人々が、この場所を大切に思い、自分達で生活を始めることができるようにサポートしています。

特に親がいない子供たちは、ブラッド星人やプレアディス人、そしてシャンバラの人達のように、人間の姿に近いスターピープルもいますので、彼らが親代わりとなって生活を見ています。

特に虐待を受けたり、強制労働を強いられていた子供たちは、大きな心の傷を持っているので、心のケアも行う必要があります。

スターピープル達は、子供たちの心の声に耳を傾けながらケアを行っていったようです。

親がいない子供達は、共同生活をしながら、いち早くシャンバラの種族を中心として、他の地球人とは異なる場所で教育を受けています。

農業の仕方や道具の使い方、料理の仕方、衣服の作り方なども楽しく教えているようです。

そしてシャンバラの神官と共に瞑想しながら、「宇宙の愛」について多くの学びを行っています。

「光の地球」に人々が移されて、時間がたつにつれ、少しずつ人々の意識が変わってきたようです。人々は新しい世界で生きていく事を考えはじめ、家づくりや農業に着手し始めました。幸いなことに、日本の宮大工のような方もいらして、大掛かりな機械などを使わずに、木の住宅を作り始めました。しかも釘などを使わない組木細工の建築法をみて、多くの人が驚いたようです。

この場所に来た人達も、彼らの仕事には大変興味を持って、多くの人達が大工さんに弟子入りしてきました。彼らは、力を合わせて家づくりや道具づくりを学び、今一生懸命に住宅を作っているようです。ただし必要な木材は、スターピープルが宇宙船で近くまで運び、人々の見えない所で降ろした後に、車輪のついた荷車などに乗せて運んでいるようです。最初から電気も機械もあるわけではないので、簡単な道具だけが、スターピープル達によって用意されているようです。最近では鍛冶屋も出来たので、鉄の道具なども自分達で作りはじめたと聞いています。

大切な食糧に関しては、「光の地球」では豚肉や牛肉は食べませんので、穀物や野菜が中心となります。牛はいますが、農耕の手伝いや未だ小さな子供のために牛乳を与えてあげる為に利用されているようです。一度、牛肉を食べようとした人がいたようで、スターピープル達がとめて大騒ぎになったと聞いています。

ここでは、野菜や穀物が中心ですが、現在はまだ土地の開墾中で、十分な作物が作れていません。其の為に、スターピープル達が今の地球から野菜や穀物を運んで配給したり、グループの人達が共同で全員分の食事を作っているようです。ただ、農業や園芸をされていた方も多く、農薬や化学肥料を使わない農業をその様な人から学んだり、シャンバラの人達が、新たな農業を多くの人達に指導したりしています。その結果、少しずつ広い畑が作られ、様々な野菜が作られるようになってきましたので、2～3年後くらいには自給できるのではないかと考えています。

洋服や生活用品もまだ、自分達で作れている訳ではありませんので、地球から自然素材の物を選んで「光の地球」に運んでいるようです。この世界では、地球の環境に悪い影響を与える技術は発展させないことになっていますので、環境に適応した技術がスターピープルによって指導されています。やがて生活に必要な物資も自分達で作れるようになるでしょう。

この世界では、基本的にお金による経済は行わないようになっています。今の「光の地球」のレベルでは、未だ自給自足ができていませんが、2～3年後にはそれも可能になるかもしれません。しかし、人々は品物をお金で買うのではなく、自分が生産した物やサービスと交換したり、必要な人が必要な分だけ受け取れるような制度が出来上がってくると思います。

全てを自分達が管理して、自由に必要なだけの物資や食べ物が受け取れるような世界が来ると思われます。ほとんどのスターピープルの世界はそのようになっていますので、それは決して難しい事ではないと思います。

またそうなる事で、お金によって引き起こされる様々な欲望やトラブルもなくなり、人々の意識進化も進むことでしょう。

問題は電気などの科学技術です。

スターピープル達はすでに化石燃料や原子力ではないフリーエネルギーを使用していますので、このフリーエネルギーを「光の地球」の人々にどのようなタイミングで与えるかについて協議しているようです。

現在の「光の地球」には、優秀な職人達はたくさんいますので、家づくりや農業は進んでいきますが、科学者や専門の技術者はまだほとんどいません。

私達は、光59%の世界に科学者や研究者、技術者を沢山集めて、学びを行ってもらい、愛の度数が規定以上になったら「光の地球」にアセンションしてもらう予定にしています。

そして、彼らが「光の地球」に生まれ変わった後に、スターピープル達から科学技術のアイデアを与えてもらい、進んだ科学文明を、地球人の力で発展させる事になっています。

そうすることで環境に悪影響を及ぼさないフリーエネルギーを開発し、様々な科学技術を一気に成長させていく事になるでしょう。

おそらく、私達の意識が成長すれば、スターピープルとの共同研究もおこなわれますので、私達が使用しているコンピューターや通信、様々な生産に関わる技術を始め、他の星々に行くための宇宙船や様々な輸送の方法も大きく進化していくと思われます。

また、非常に高い叡智や技術を持っているスターピープル達も、地球人としてたくさん生まれてくると思いますので、今まで予想もしなかった進化も起こりそうです。

先日、深いブラックホールの中から助けだした地球の原初の種族なども、「光の地球」に住んでいる地球人を両親として、生れてくる事を望んでいます。

彼らは、私達とはけた違いの能力や叡智を持っていますので、彼らが地球人として生まれてくれば、地球人は一気に成長していくと思われます。

また今までの地球からも生まれ変わって「光の地球」に入ってくることも出来ます。

今までの地球とは、もうすでに存在している場所が異なりますが、創造主達によって、光の通路が作られていますので、これからも、地球で多くの学びを行なった人達が、「光の地球」に入ってきて活躍することを望みたいと思います。

「光の地球」の基盤が出来上がったら、私達は次の段階にはいる事でしょう。

それは、「光の地球」に新たな統一政府ができて、多くの人々が不自由なく暮らせるようなシステムが作られることとなります。

私達は、やがて宇宙連合に参加を許されれば、地球種族として他のスターピープルと共に宇宙の平和と進化のために働くことができるようになるのです。

地球の種族は、大きな闇の世界を乗り越えてきた種族として、これから成長していく様々な種族に対して手助けをすることができるようになります。

今回、私達がアセンションを行うにあたって、多くのスターピープル達が、自分達の犠牲をいとわずに献身的に働いてくれた恩を忘れてはいけません。

# 光りの世界の区分（極秘事項）

## ○光りの世界の区分

ここでは、まず光の地球といっても一つではなく、光に応じていくつもの地球に分かれていることをお知らせしておきます。

そして、ここでは大まかに60%台、70%台と書いていますが、本当は、1%単位で世界が異なっていますが、大まかな区分のみで説明させていただきます。

地球の光と闇の割合は、およそ光40%、闇60%、現在はもう少し光の割合が多い世界のようなようです。この割合の世界では、闇の力が強いので、戦争やテロ、殺人や虐待、人種差別などが起こりますが、光の割合が50%を超えると、戦争や殺人などもほとんど起こらなくなりますが、まだ学びが必要な人には、その学びにふさわしいことが起こります。

60%台になると、愛と調和に満ちた人々が増えてきますので、人間としての完成を目指すような学びが始まります。

しかしそれは争いなどの人を傷つけることではなく、どれほど愛を注げるか、とかどれほど人のために尽くせるかなどといった、とてもポジティブな学びになります。

また人々も、言葉でなく意思疎通ができるようになりますので、嘘を言ったり心の中に隠し事ができなくなるような世界になるかもしれません。

そしてさらに大切なことは、スターピープル達に対する理解が求められるようになります。

更に光りの度合いが70%よりも強くなると、学びが少なくなり、愛と共に生きるようになりますので、争いや差別などもほとんど起こらずに調和に満ちた世界が繰り広げられます。

生きている人では70%台が最高クラスになるようです。

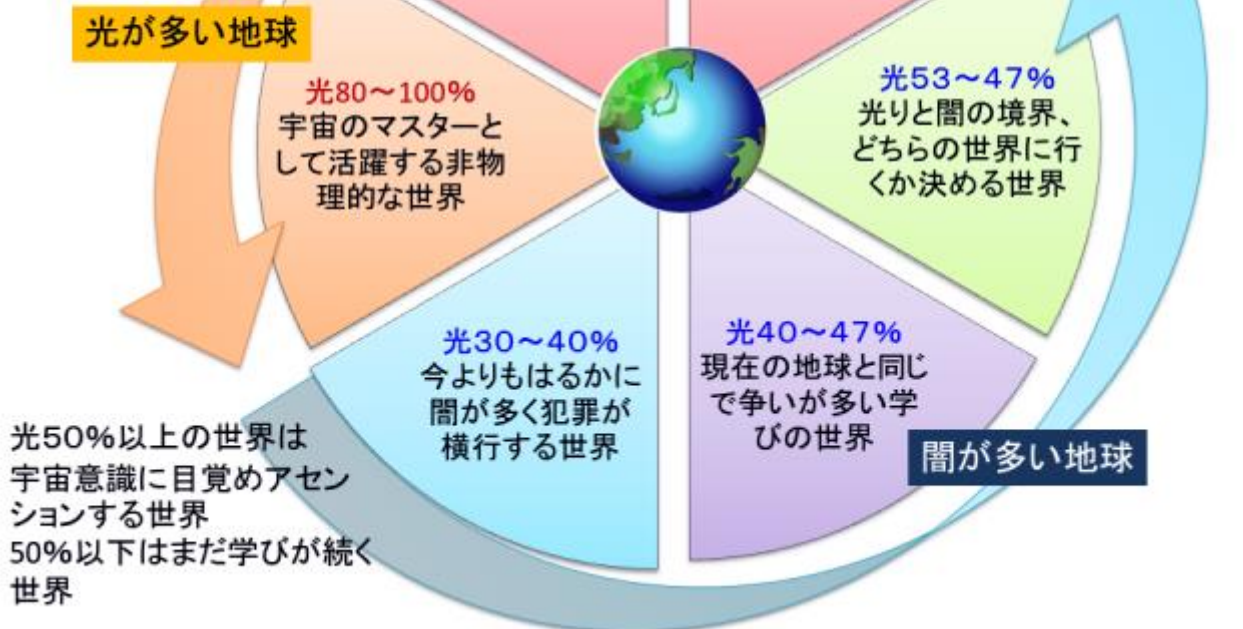
更に光りの割合が80%を超えると、もう物理世界に生きている人はほとんどいなくなり、宇宙の運営に関わる仕事を始めることでしょう。

それでは、どのような人がどのような世界に入れるか、創造主の極秘事項ですが、こっそりお教えしますので、少しでも上の世界に入れるよう努力してください。

またこのことは、私達の主観ですので、違うと思う人は信じる必要はありません。



人間は自分の心の光の状態に応じていく世界が決まります。  
 学びが多い世界も愛と調和に満ちた世界も、全てあなたのために必要な世界です。



光50%以上の世界は宇宙意識に目覚めアセンションする世界  
 50%以下はまだ学びが続く世界

<p>光90%台の世界 宇宙のマスターの世界</p>	<p>宇宙の管理者として働くスピリチュアルな存在達の世界。          憎しみや争いなどとは無縁で愛と調和のみが存在する世界。          また宇宙の管理者となるべく学びを行う世界。          自らが愛と光りになるために学びを行うスピリット達の世界。</p>
<p>光80%台の世界 宇宙と地球に生きるマスターの世界</p>	<p>宇宙のために働くスピリチュアルな領域に生きる人々。          自らもスターピープルとなり、宇宙の中にある様々な問題の解決のために働くことを喜びとしているスピリット達。          ここに入る人は、宇宙で起きていることを深く理解し、常に真実を求め努力してきた人。          地球においては、地球の中にある不正を知り、それを正すために戦い、地球と地球に生きる人々を自由で平和な者にするために常に努力してきた人々。          この地球の闇を知りながらも、憎しみを捨て愛によって生きてきた人たち。          人間としてのエゴを捨て、自分の人生を他人のために奉仕してきた人達。</p>
<p>光70%台の世界 物理的な光の地球での指導者の世界</p>	<p>光80%の人達と同じように、地球の闇と闘い続けてきた人達の中で、自分のエゴや欲望を捨て、愛の人として生きる実践を行う人々。          またスターピープルのことを深く知り、彼らと共に働ける人。          自分の感情に振り回されずに常にニュートラルな立場にあって真実を追い求める人</p>

	<p>地球と人の事を、愛をもって考え行動してきた人達が、肉体を失った後に行く世界。 現実世界に生きる人も少数存在し、地球の人たちが光りの世界に行くためのサポートをスピリチュアル・レベル、現実レベルで行う。 60%台の世界の学びを終えてからこの世界に来ることが多いようです。</p>
<p>光60%台の世界 地球では光の世界として新しく生まれた世界。 宇宙意識に目覚めるための世界</p>	<p>60%台の後半の人は・・・ 常に正義と愛のために生きてきた人。 欲望に振り回されず、欲望と感情を上手にコントロールできて、自分の中の光と闇を統合してきた人。 スターピープルのことを理解し上手に付き合うことができる人 この世界は、さらに上の世界に行くための通過点として、肉体をもって学びを行う人たちが入る世界。 少数民族の人たちの仲でも、一般社会を知りながらも、その社会に毒されず、常に祈りを行ってきたシャーマンや神官、少数民族の文化やしきたりを守ってきた人々。 ここに属する人は、これからの「光の地球」をしっかりと守護し、人々を導いていく立場にある。</p> <p>60%前半の人は・・・ 光の世界にはいる為の教育が行われる世界。 地球や宇宙の仕組みを学ぶために生きてきた人達で、さらにその学びを続ける人。 しっかりと愛や調和を目指して生きてきたが、まだ十分に実現出来ておらず、自分の中の光と闇もしっかりと統合できていない人。 周りの人に対して愛と奉仕の気持ちを持って生きてきたが、今まで宇宙や地球に対しての理解も十分でなくスターピープルの事もよく知らない人達が、学びを行うための場所。 この世界では争いや戦争、差別や虐待もなくなり、地球人同士でも愛に基づいた関係がはじまり、安らぎと光りに満ちた世界が生まれてくる。</p>
<p>光56%～59%の世界 光が多い学びの世界</p>	<p>この世界からアセンションした世界としてスターピープル達により保護される世界になります。 今の地球よりはさらに光がある世界で、戦争や争い、虐待、殺人などは減り、愛と調和に満ち、自然破壊などもなくなり環境問題も解決していく世界となるでしょう。 この世界に行く人は、今の世界でも良心を持って生きてきた人で、人の役に立ちたいと考えて生きてきた人達です。 そして、地球人としての進化を望む人がこの世界に入り、光の世界へ入るための学びを行います。 この世界の学びは「愛の実践」です。 宇宙の愛を身につけ、人のために奉仕することがこの世界の学びとなります。 この世界で学びを終わった人は、本格的なアセンションの世界である光60%以上の世界に生まれ変わります。</p> <p>強い欲望や支配欲を持った人や人と争うことが好きな人は入れません。 人をだました人、人に不正を働く人、自己中心的な人は入れません。</p>

<p>光 5 1 % ~ 5 5 % の世界 光と闇の境界の世 界  光の度合いはイラ ストとことなりま すが、こちらの度合 いが最新です</p>	<p>ここは光りの世界と闇の世界の境界線にあたる世界で、中間の世界とも呼ばれています。現在の地球よりは、光が強くなりますので、戦争や虐待などはすこしずつ減ります。時間がたつにつれ、現在よりはまともな政治家や経済人が現れ、社会の変革も進むでしょう。</p> <p>この世界にはいる人は、戦争や支配、抑圧のある世界を嫌っている人で、もっと愛に満ちた世界、調和のある世界に入りたいと考えている人達です。</p> <p>また他人のために役に立ちたいと思い行動している人や他人に親切にすることが好きな人達がこの世界に入ってきます。</p> <p>ただしこの世界には、狡猾な地球外存在達もすでに入り込んでいるので社会の混乱や自然災害も起こりますので、その様なことを乗り越えていく事が、この世界の人々の学びとなります。</p> <p>ヒーリングやスピリチュアルな仕事をしている人でも、人々の幸福のために働いている人は、この世界に入りますが、物欲や支配欲、名誉欲のためにしている人は、ここからさらに下の世界に行くこととなります。</p>
<p>光 4 0 % ~ 5 0 % の世界 現在の地 球と同じ学びの世 界  光の度合いはイラ ストとことなりま すが、こちらの度合 いが最新です</p>	<p>ここからが、アセンションとは反対にディセンションした世界となります。</p> <p>光40%台の世界は、今までとほとんど変わらない世界で、戦争や争い、テロ、詐欺、レイプ、傷害などが日常的に起こっている世界です。</p> <p>経済的な侵略によって、世界の人々は貧富の差が激しくなり差別を受けます。</p> <p>宗教、技術、論理もすべてが争いのために利用されます。</p> <p>この世界に行く人は、自然災害や戦争、原発の事故なども含め、現在の地球が体験する未来をともに体験することとなります。</p> <p>現状の世界を好みお金儲けやぜいたくな生活をしたくない人達、人や自分や他人にたいして不誠実な生き方をしてきた人達は、この世界にそのまま残るようです。</p> <p>他人を支配をしようと思う人、他人に依存したり、他人支配されることを好む人もこの世界にとどまります。</p> <p>この世界は多くの地球外生命体達も存在しますので、彼等の支配をうけず自立していく事が、この世界の学びとなるでしょう。</p>
<p>光 3 0 % 台の世界 闇が多い学びの世 界</p>	<p>今の地球よりもさらに闇が多くなりますので、現在よりも状況がはるかに悪くなります。戦争やテロが多発し、多くの人が争いや原発事故、自然災害に巻き込まれ苦難の多い人生を送ることになるでしょう。</p> <p>そして人々はその中で多くの事を学び目覚めていくための機会を待つことになると思います。</p> <p>この世界には、多くの欲望に取り付かれ、他人を支配したり傷つけることを好んで行ってきた人たちがいく世界になると思います。</p>